

秘

海軍公報

第四八二〇號

昭和十九年十月七日(土)
海軍大臣官房

○令 達

達第三四一號

昭和十九年度ニ於テ建造ニ着手ノ驅逐艦二隻、潜水艦四隻、海防艦十三隻及輸送艦二隻ヲ左ノ通命名ス

昭和十九年十月五日

海軍大臣

佐世保海軍工廠ニ於テ建造

驅逐艦 夏 月(ナツヅキ)

横須賀海軍工廠ニ於テ建造

驅逐艦 葛 葉(ツク)

伊號第三百七十三潜水艦

吳海軍工廠ニ於テ建造

伊號第二百五十五潜水艦

第十四號輸送艦

第十五號輸送艦

川崎重工業株式會社ニ於テ建造

波號第一百八潜水艦

波號第一百十潜水艦

三井造船株式會社玉野造船所ニ於テ建造

海防艦 男 鹿(ヲジカ)

浦賀船渠株式會社ニ於テ建造

海防艦 竹 生(チクブ)

日立造船株式會社ニ於テ建造

海防艦 崎 戸(サキト)

日本鋼管株式會社鶴見造船所ニ於テ建造

第五十七號海防艦

第五十九號海防艦

日本海船渠株式會社ニ於テ建造

第六十五號海防艦

浪速船渠株式會社ニ於テ建造

第二百十九號海防艦

三菱重工業株式會社長崎造船所ニ於テ建造

第八十二號海防艦

第八十四號海防艦

第二百二號海防艦

第二百四號海防艦

株式會社東京石川島造船所ニ於テ建造

第一百六號海防艦

株式會社播磨造船所ニ於テ建造

第四百四十四號海防艦

秘海軍公報 第四八二〇號 昭和十九年十月七日

一三四三

1456

内令第一一四二號
昭和十八年内令第二〇五五號海軍練習航空隊ノ所掌事項ノ件
左ノ通改正ス

昭和十九年十月一日

海 軍 大 臣

「福岡海軍航空隊」ノ下ニ「小富士海軍航空隊」ヲ加フ

(内令提要卷一、三〇ノ四三頁参照)

内令第一一四三號

海軍航空隊ノ所管、名稱及所在地又ハ原駐基地ノ件
中左ノ通改正セラル

昭和十九年十月一日

海 軍 大 臣

横須賀鎮守府ノ部中父島海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

北東海軍航空隊

美幌航空基地(北海道網走郡)

同部中東カロリン海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

馬來海軍航空隊

厚木航空基地(神奈川県高座郡)

同部中第七〇五海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

第七二二海軍航空隊

百里原航空基地(茨城県茨城郡)

同部中第一〇二三海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

第一〇二三海軍航空隊

本更津航空基地(千葉県本更津市)

同部中第五〇二海軍航空隊及第七〇五海軍航空隊ノ各項ヲ削ル
吳鎮守府ノ部中菲島海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

東印海軍航空隊

岩國航空基地(山口縣岩國市)

同部中第九三二海軍航空隊及第九三四海軍航空隊ノ各項ヲ削ル
佐世保鎮守府ノ部中福岡海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

小富士海軍航空隊

福岡縣糸島郡

同部中第五五三海軍航空隊ノ項ヲ削ル

左ノ地ニ海軍航空隊分遣隊ヲ置ク部中福岡海軍航空隊小富士分遣隊ノ項ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ四〇ノ一頁参照)

内令第一一四四號

海軍練習航空隊ニ指定ノ件
中左ノ通改正セラル
昭和十九年十月一日

海 軍 大 臣

「福岡海軍航空隊」ノ次ニ「小富士海軍航空隊」ヲ加フ

(内令提要卷一、三〇ノ四二ノ一頁参照)

官房入機密第一七九八號 昭和十九年九月三十日附高等官六等ニ陞等セル海軍技師中副部 員又ハ副課員タリシ者ハ同日附ヲ以テ各々其ノ應ノ部員又ハ課			員ニ補セラレタルモノトス 昭和十九年九月三十日 海 軍 大 臣			
官房第一一七〇號 昭和十九年度新造計畫雜役船（特型運貨船）ノ公稱番號、船種、所屬等ヲ左ノ通定ス 昭和十九年十月五日 海 軍 大 臣						
公 稱 番 號	船 種	所 屬	記 事			
			定 數 別	製 造 所	計 畫 番 號	完 成 期
第二〇八一號	特型運貨船 (十七米)	佐世保防備隊	臨時附屬	三菱下關造船所	九十四四六一	十九年四月
至自 第二〇九二號	同 (同八隻)	同	同		至自 九十四四七九	至自 同同 (年五 月三 隻)
第二一〇〇號	同 (同)	同	同	名村造船所	九十四四八六	同 年 四 月
至自 第二一一二號	同 (同十隻)	同	同		至自 九十四四八七	至自 同同 (年五 月二 隻)
第二一二三號	同 (同)	同	同	佐野安船渠會社	九十四五〇二	同 年 四 月
至自 第二一二四號	同 (同六隻)	同	同		至自 九十四五〇三	至自 同同 (年五 月二 隻)

秘海軍公報 第四八二〇號 昭和十九年十月七日 一三四五

第二五四〇號	同	(同)	同	同	宮地鐵工所	九一四五四〇	同	同年十二月
第二五三九號	同	(同)	同	同	宮地鐵工所	九一四五三九	同	同年十一月
第二五三七號	同	(同)	同	同	名村造船所	九一四五〇一	同	同年十二月
第二五三六號	同	(同)	同	同	名村造船所	九一四五〇九	同	同年十一月
第二五三四號	同	(同)	同	同	佐野安船渠會社	九一四五一七	同	同年十二月
第二五三三號	同	(同)	同	同	佐野安船渠會社	九一四五一六	同	同年十一月
至自第二五三一號	同	(同)	同	同	三菱下關造船所	九一四四八五	至自同	同年十一月
至自第二五二五號	同	(同)	同	同	宮地鐵工所	九一四五二五	至自同	同年四月
至自第二五二四號	同	(同)	同	同	宮地鐵工所	九一四五二六	至自同	同年五月
至自第二五二〇號	同	(同)	同	同	三光造船所	九一四五二四	至自同	同年四月
至自第二五〇五號	特選運貨船	(同)	同	同	佐野安船渠會社	九一四五〇九	至自同	同年八月

公稱番號	船種	所屬	定數別	製造訓令番號	計畫番號	完成期
至自 第一 六二六 號號	同 (十六隻)	舞鶴防備隊	同	昭和十九年官房艦機 密第四四二五號(舞鶴)	至自 九九 一一 〇〇八 六	至自 十九 年八 月 (月四隻)
至自 第一 四六一 〇號號	同 (百五十隻)	佐世保防備隊	同	田中車輻會社	至自 九九 九一 六五四 〇	至自 二十 年三 月 (月十五隻)
至自 第一 四〇一 〇號號	同 (六十隻)	橫須賀防備隊	同	日本車輻製造會社	至自 九九 九一 五四八 〇	至自 十九 年四 月 (月十隻)
至自 第一 三五一 〇號號	同 (五十隻)	佐世保防備隊	同	若松車輻會社	至自 九九 九一 二一六 〇	至自 二十 年二 月 (月十隻)
至自 第一 三三一 〇號號	同 (二十隻)	佐世保防備隊	同	若松車輻會社	至自 九九 九一 一六四 〇	至自 十九 年六 月 (月五隻)
至自 第一 三二七 〇號號	同 (六十隻)	橫須賀防備隊	同	日本車輻製造會社	至自 九九 九一 八七八 〇	至自 二十 年三 月 (月十隻)
至自 第一 二二二 〇號號	同 (五十隻)	橫須賀防備隊	同	汽車製造會社	至自 九九 九一 三五〇 一	至自 二十 年四 月 (月十隻)
至自 第一 二〇八 五號號	同 (八隻)	佐世保防備隊	同	昭和十九年官房艦機 密第三九五八號(佐世保)	至自 九九 九一 二九八 五	同年七月
至自 第一 二〇〇 七號號	同 (七隻)	佐世保防備隊	同	昭和十九年官房艦機 密第三九五八號(佐世保)	至自 九九 九一 二八八 七	十九年六月
至自 第一 二〇〇 一號號	特型運貨船 (百十四隻)	橫須賀防備隊	臨時附屬	橫河橋梁製作所	至自 九九 九一 二八八 〇	至自 十九 年三 月 (月十隻)

至自 第三 〇一 號號	同	(同 十隻)	佐 世 保 防 備 隊	同	昭 和 三 〇 四 一 號 (火 災)	至自 九 九 一 一 八 〇 一	至自 十九 年 十 二 月 (月 十 隻)
至自 第二 二一 〇號號	同	(同 十隻)	横 須 賀 防 備 隊	同	昭 和 三 〇 四 一 號 (火 災)	至自 九 九 一 一 八 〇 一	至自 十九 年 十 二 月 (月 十 隻)
至自 第一 九七 七號號	同	(同 八隻)	同	同	宇 品 造 船 所	至自 九 九 一 一 八 〇 一	至自 十九 年 十 二 月 (月 十 隻)
至自 第一 九七 四號號	同	(同 六隻)	同	同	九州 造 船 若 松 工 場	至自 九 九 一 一 八 〇 一	至自 十九 年 十 二 月 (月 十 隻)
至自 第一 八八 一號號	同	(同 十隻)	同	同	若 松 車 輻 會 社	至自 九 九 一 一 八 〇 一	同 年 三 月
至自 第一 八七 〇號號	同	(同 十隻)	同	同	松 尾 橋 梁 製 作 所	至自 九 九 一 一 八 〇 一	至自 十九 年 十 二 月 (月 十 隻)
至自 第一 八七 〇號號	同	(同 十隻)	同	同	日 立 製 作 所	至自 九 九 一 一 八 〇 一	至自 十九 年 十 二 月 (月 十 隻)
至自 第一 七四 〇號號	同	(同 十隻)	同	同	汽 車 製 造 會 社	至自 九 九 一 一 八 〇 一	至自 十九 年 十 二 月 (月 十 隻)
至自 第一 六六 八號號	同	(同 十隻)	同	同	日 立 製 作 所	至自 九 九 一 一 八 〇 一	同 年 八 月
至自 第一 六六 八號號	同	(同 十隻)	同	同	鶴	至自 九 九 一 一 八 〇 一	至自 十九 年 十 二 月 (月 十 隻)
至自 第一 六四 七號號	同	(同 十隻)	同	同	鶴	至自 九 九 一 一 八 〇 一	至自 十九 年 十 二 月 (月 十 隻)
至自 第一 六四 七號號	同	(同 十隻)	同	同	鶴	至自 九 九 一 一 八 〇 一	至自 十九 年 十 二 月 (月 十 隻)
至自 第一 六四 七號號	同	(同 十隻)	同	同	鶴	至自 九 九 一 一 八 〇 一	至自 十九 年 十 二 月 (月 十 隻)

官房經第九三六號

國防獻金等取扱手續中左ノ通改正ス

昭和十九年十月五日

海軍大臣

第八條 分任出納官吏ノ受領シタル獻金ハ每一月分ヲ取纏メ寄附者名簿(別紙様式)ヲ添ヘ翌月頭ニ海軍省經理局出納官吏ノ當座預金口座ニ振込ミ又ハ適宜ノ方法ニ依リ海軍省經理局出納官吏ニ送付スベシ
別紙様式ヲ別紙ノ如ク改ム
(別紙添)

(會計法規類集一卷 四三六ノ七頁參照)

官房人機密第一八二八號

防衛召集應召員ノ配員等取扱規則中左ノ通改正ス

昭和十九年十月六日

海軍大臣

題名中「防衛召集」ノ下ニ「及徵備船舶船長召集」ヲ加フ
第六條 徵備船舶船長召集ヲ令セラレタルトキハ別ニ辭令等ヲ用ヒズシテ現ニ乗組中ノ船舶ヲ使役スル艦船部隊官衙ノ所屬スル鎮守府(海軍省配屬船舶ニ乗組中ノ者ニ在リテハ當該船舶ノ所管鎮守府)、警備府又ハ艦隊司令部ニ附トシテ配員シ同所轄ヨリ乗組ノ船舶ニ派遣セラレタルモノトス
徵備船舶船長召集中ノ人員ハ前項ニ掲グル鎮守府、警備府又ハ艦隊司令部ニ臨時増置セラレタルモノトス

○通牒

官房備第三一九號

昭和十九年十月五日

海軍省副官

關係各廳長殿
南西諸島及臺灣所在海軍部隊發着公用郵便物速達ニ關スル件通牒
南西諸島及臺灣所在海軍部隊發着公用郵便物ニシテ至急ヲ要スルモノハ左記要領ニ依リ「急送扱」ノ取扱ヲ爲スコトニ定メラレ候條了知相成度

記

- 一 郵便物ノ表面ニ「急送扱」ノ文字ヲ朱記スルコト
- 二 左ノ各局窓口ニ差出スコト
 - イ 内地ヨリ南西諸島及臺灣宛
 - 大本營内局(海軍部)、大湊局、横須賀局、大阪中央局、東舞鶴局、吳局、佐世保局
 - ロ 南西諸島ヨリ内地宛
 - 那覇局
- ハ 臺灣ヨリ内地宛
- 臺北局、高雄局
- 三 内地ヨリ南西諸島及臺灣宛本件郵便物ハ夫々那覇局、臺北局又ハ高雄局ニ送達セラルル處同局ニ於ケル之ガ配達ハ一般郵便物ト同様ニ取扱フベキニ付現地部隊ハ必要ニ應ジ之ガ受

秘海軍公報 第四八二〇號 昭和十九年十月七日

一三四九

1462

取方ニ關シ右局ト連絡ノ上適當ニ措置スルコト
四 其ノ他急送扱公用軍事郵便物ニ關スル取扱ト同様ナルコト

軍務一機密第九三四號

昭和十九年十月四日

海軍省軍務局長

關係各廳長殿

飛行專修(要務)豫備學生徒ノ配置ニ關スル件申進

昭和十九年九月二十八日附各艦船部隊ニ配屬セラレタル首題豫備學生徒ハ目下航空部隊ニ於ケル准士官以上ノ配員不足シアル實狀ニ鑑ミ可及的飛行科准士官以上ニ對スル机上諸要務ノ負荷ヲ輕減セシムルノ趣意ナルニ依リ概ネ左記配置ニ就カシメ可然教育指導方取計相成度

記

- 一 飛行士及飛行隊士
- 二 飛行分隊士、整備分隊士及兵器分隊士
- 三 航空隊副官事務輔佐
- 四 司令部幕僚事務輔佐

軍需二機密第九二九號

昭和十九年十月四日

海軍省軍需局長

關係各廳長殿

燃料材料品細目ニ關スル件通牒
燃料製造用砂糖ハ燃料經理規程別表第二製造材料トシテ處理相成度
(昭和十九年七月二十六日達第三三五號參照)

軍需二機密第九三〇號

昭和十九年十月四日

海軍省軍需局長

關係各廳長殿

燃料等ノ貯藏供給ニ關スル件申改正ノ件通牒
昭和十三年軍需機密燃第二五七號通牒首題ノ件中一、貯藏ノ部(四)原料ノ貯藏ノ表中、乳化防蝕油ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

一號凝固點降下劑	一降劑	S	重油凝固點降下劑
二號凝固點降下劑	二降劑	P	外部礦油凝固點降下劑

(燃料需品、燃料取扱規程三九五頁參照)

艦本機密第一號ノ二七二一

昭和十九年十月三日

海軍艦政本部總務部長

關係各廳長殿

假稱四式時限信管及假稱四式傳火筒供給竝ニ使用ニ關スル件照會

首題兵器ハ兩者ヲ併用シテ初メテ艦中安全性ヲ確保シ得ルモノ

ナルニ付之方供給又ハ使用ニ際シテハ假稱四式時限信管トシテハ必ズ假稱四式傳火筒ヲ供給セシムル様取計相成度
追テ在庫量僅少ノ現狀ニ鑑ミ假稱四式傳火筒ヲ九一式傳火筒ノ代ニ供給又ハ使用スルガ如キコト無キ様特ニ留意セシメラレ度

航本機密第二二七六號
昭和十九年十月一日

海軍航空本部總務部長

關係各廳長殿

航空揮發油丙（「アルコール」混合航揮）使用
ニ對スル氣化器調整ニ關スル件申進

首題ノ件ニ關シテハ航本機密第九四〇二號（祕海軍公報第四七五七號所載）ヲ以テ既ニ申進セル處其ノ後實驗ノ結果左記ノ通變更スルヲ適當ト認メ候條了知相成度

記

機體	發動機	使用區分	在來ノ調整	丙揮發油使用ノ場合ノ調整
九三中線	天風 一〇型	七〇揮丙	主噴口流量 〇每分一七五 〇立方寸	調整變更ヲ要セス、但シ未改造氣化器ニテ氣溫一七乃至一八度以下ノ場合加速稍不良ナルモノハ微連ハトニヤシ最濃ニシ給氣加熱裝置ヲ7/10乃至8/10ニナスヲ要ス
白菊 二〇型	天風 二〇型	八五揮丙	主噴口流量 〇每分一三五 〇立方寸	流量毎分一八〇〇立方寸ノ主噴口ニ換裝ヲ要ス

祕海軍公報 第四八二〇號 昭和十九年十月七日

〇感 狀

千田海軍少將ノ指揮セル

- 第二十八根據地隊司令部ノ一部
- 第十九警備隊ノ一部
- 第三十三防空隊
- 第一百五防空隊
- 第二百二設營隊
- 第一海軍燃料廠第一調査隊
- 第一海軍燃料廠第一調査隊
- 第一海軍燃料廠第一調査隊

昭和十九年五月中旬以降海空ヨリスル敵ノ砲爆撃下ニ克ク「ビアク」島航空基地ヲ守備シ五月二十七日優勢ナル敵同島ニ上陸シ來ルヤ所在陸軍部隊ト協力果敢ナル反撃ヲ加ヘテ之ヲ水際ニ壓迫シ永ク其ノ進出ヲ阻止スル所アリシガ海空陸ノ敵次第二増加スルニ及ビ我が死傷續出シ彈藥糧食亦缺乏ニ瀕スルモ更ニ屈セズ二箇月有餘ニ亘リ寡兵克ク衆敵ヲ拘束シテ其ノ西進ヲ抑留シタルハ全軍ノ作戰ニ寄與スル所極メテ大ニシテ其ノ武勳顯著ナリト認ム

仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス

昭和十九年七月三十一日

聯合艦隊司令長官 豊田 副武

○ 雜 款

○十版内令提要追録第十八號(十九年八月三十一日現在)十月三日發送済ニ付受領セバ直ニ加除整理ヲ施行シ至急受領票送付相成度

(海 軍 省 副 官)

○入校式施行

十月十日(火)一〇三〇ヨリ第七十五期豫備生徒入校式ヲ施行ス

(横須賀海軍砲術學校長井分校)

○移轉

高雄海軍運輸部基隆支部ハ九月十九日左ニ移轉セリ
基隆市日新町一丁目一番地 電話番號 一六一七

○轉勤者赴任先並ニ書類發送先ノ件

パラオ、ダバオニ本院ノ分院ヲ設置セラレ候處轉勤者ノ赴任先並ニ書類發送方ハ左ニ依リ取計相成度

一 轉勤者赴任先

分院ヘノ轉勤者ハ直接分院ニ向ケ赴任ノコト

二 給與通牒

各分院所在地ニアル第百三海軍經理部支部資金前渡官吏宛トスルコト

(第百三海軍病院)

○事務開始

第四十九號海防艦艇裝具事務所ヲ九月十四日横濱市鶴見區辨天町一七日本鋼管株式會社鶴見造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

合同海軍葬儀執行

期日及時刻	大東亞戰爭戰歿者	喪葬管理者	場 所	記事
十月十三日 一〇〇〇	故海軍大佐青山英夫外諸勇士	山形地方海軍人事部長	山形市第四國民學校	佛式
十月十四日 一〇三〇	故海軍少佐梅津武雄外諸勇士	盛岡地方海軍人事部長	盛岡市縣公會堂	同
十月二十七日 一三〇〇	故海軍大尉佐藤梅藏外諸勇士	秋田地方海軍人事部長	秋田市市記念會館	同
十月三十日 同	故海軍少佐山内操外諸勇士	大湊海軍人事部長	青森市市公會堂	同

○本日海軍公報發行セズ

(官房經第九三六號別紙様式)

(昭和十九年十月七日秘海軍公報)

受領月日	寄附中出書番號	金	額	希望使途	寄附者住所氏名
合計					但月中五拾圓未滿寄附金

備考

二 一口ニ付金額五十圓以上ノモノハ之ヲ一件毎ニ記載シ一口五十圓未滿ノモノニ付テハ其ノ件數及金額ノ合計ヲ名簿末尾ニ記載スルモノトス
但シ希望使途ヲ異ニスルモノアルトキハ希望ノ使途ニ從ヒ區分スルモノトス

1466

秘

海軍公報 第四八二號

昭和十九年十月九日(月)
海軍大臣官房

○令 達

官房軍機密第一二七六號
大東亞戰爭中兵器經理規程第十八條ノ規定ハ艦隊司令長官ニ之ヲ準用ス

昭和十九年十月五日

海軍大臣

官房軍機密第一二八二號

海軍航空本部真空管生産技術指導委員會規程左ノ通定ム

昭和十九年十月六日

海軍大臣

海軍航空本部真空管生産技術指導委員會規程

第一條 海軍航空兵器用真空管特ニFM2A5A及「ソラ」ノ歩止リ向上及品質ノ徹底ノ改善ヲ圖ル爲海軍航空本部ニ海軍航空本部真空管生産技術指導委員會ヲ置ク

第二條 本委員會ハ陸海軍真空管生産委員會、陸海軍(除航空)技術委員會、陸海軍航空技術委員會、陸海軍電波技術委員會、海軍艦政本部真空管生産促進調査會及電波兵器行政警察事務處理委員會ト緊密ナル聯繫ヲ保テ目的達成ニ遺憾ナキヲ期スルモノトス

秘海軍公報 第四八二號 昭和十九年十月九日

第三條 本委員會ニ於ケル審議決定事項ハ之ヲ速ニ常務機關ニ移シ實行スル如ク措置スルモノトス

第四條 本委員會ハ必要ニ應ジ分科會及専門委員會ヲ置クモノトス

第五條 本委員會ニ委員長、委員及幹事ヲ置ク其ノ組織ハ別表ニ依ル

第六條 委員長ハ會務ヲ總理ス

第七條 委員ハ議案ヲ審議ス

第八條 幹事ハ委員長ノ命ヲ承ケ會務ノ促進整理及庶務ヲ掌ル

第九條 本規程ニ定ムルモノヲ除クノ外本委員會ニ關シ必要ナル事項ハ委員長ノ定ムル所ニ依ル

(別表添)

官房人第一〇三一號

召集中ノ海軍豫備士官ニシテ本年勅令第二百七十八號海軍豫備員ヨリスル海軍武官任用等特例ノ規定ニ依リ現役ノ海軍士官ヲランコトヲ志願スルモノノ出願範圍竝ニ願書及考課表ノ進達ニ關シ左ノ通定ム

昭和十九年十月六日

海軍大臣

一 志願者ノ範圍

一三五三

1467

(イ) 飛行(操縦及偵察)又ハ兵器整備専修ノ海軍豫備學生出身ノ豫備士官ニシテ現ニ海軍大尉タルモノ及昭和十九年一月二十日海軍中尉ニ進級シタルモノ

(ロ) 飛行機整備専修ノ海軍豫備學生出身ノ豫備士官ニシテ昭和十九年五月一日以前海軍大尉ニ進級シタルモノ

(ハ) 高等商船學校出身ノ豫備士官ニシテ昭和十八年六月一日以後海軍大尉ニ進級シタルモノ及同出身ノ中少尉、

二 願書及考課表進達期限

昭和十九年十月三十一日但シ遠隔ノ地ニ在リテ所定期日迄ニ進達困難ト認ムル場合ハ所轄長ヨリ任用適任者ノ氏名ヲ電報報告スルモノトス

(諸例則卷二、一五六ノ四頁参照)

官房經機密第一六〇五號

大東亞戰爭中雇員傭人規則第十一條第二項ノ規定ニ依ル雇員及傭人ノ職名變更通報ハ之ヲ省略スルコトヲ得

昭和十九年十月七日

海 軍 大 臣

○ 通 牒

海人三機密第二〇號ノ二〇

昭和十九年十月一日

關係各所轄長殿

海 軍 省 人 事 局 長

第十四期飛行専修、第四期一般兵科、第八期整備専修豫備學生及第一期豫備生徒ノ任用及採用ニ關スル件申進

首題豫備學生、同生徒ノ少尉任用及少尉候補生採用期日ハ昭和十九年十二月二十五日ト定メラレ候條任用及採用資料等左記ニ依リ調製ノ上直接進達相成度

記

一 任用候補、採用候補名簿ノ調製

(イ) 調製期日

昭和十九年十月十五日

(ロ) 進達期日

昭和十九年十一月十日

(ハ) 調製要領

所轄別、豫備學生豫備生徒別、専修班(昭和十九年七月五日部内限公報第四七三一號参照)別トシ更ニ之ヲ成績順ニ序列ス

二 不任用候補、不採用候補名簿ノ調製

(イ) 前號名簿ニ登録シ得ザルモノアルトキハ罷免豫定、次期編入豫定及修業延期豫定別トシ其事由(修業延期ニ對シテハ延期期間)ヲ附記スルモノトス

(ロ) 調製期日、進達期日

前號ニ同シ

三 候補名簿調製期日以後ニ於テ第一、第二號名簿ニ異動ヲ生ジタルトキハ事由ヲ附シ其都度速ニ報告スルモノトス

四 第一、第二號ニ依リ候補名簿ニ登載セラレタル者ニシテ所屬ヲ變更シタルトキハ舊所轄長ヨリ新所轄長ニ速ニ登載名簿別ヲ移牒スルモノトス

五 不任用候補、不採用候補名簿ニ登載セラレタル者ニ對スル罷免其中、次期編入修業延期上中書類ハ十一月末日迄ニ調製送付スルモノトス

海人第一二號ノ一〇九

昭和十九年十月七日

海軍省人事局長

關係所轄長殿

豫備士官專修科目變更ノ件通知

左記ノ者ハ孰モ十月一日附專修科目「飛行班」ヲ「要務班」ニ電報區別符「ヨヒ」ヲ「ヨヨ」ニ變更セラレ候

記

官等	氏名	專修別		電報符	
		舊	新	舊	新
少尉	田中 政孝	飛行班	要務班	ヨヒ一五七五	ヨヨ一五七五
同	久保 治雄	同	同	ヨヒ一六七〇	ヨヨ一六七〇
同	須賀 保	同	同	ヨヒ一二二二	ヨヨ一二二二
同	稻住 榮三	同	同	ヨヒ一四一六五	ヨヨ一四一六五
同	伊藤 宏盛	同	同	ヨヒ一四五五六	ヨヨ一四五五六

同	中川 忠六	同	ヨヒ一四九二八	ヨヨ一四九二八
同	清野 隆	同	ヨヒ一五一五〇	ヨヨ一五一五〇
同	福井 重利	同	ヨヒ一五二〇七	ヨヨ一五二〇七

航本機密第一二四八九號

昭和十九年十月七日

海軍航空本部總務部長

海軍航空技術廠總務部長

第二十二、六十一、海軍航空廠總務部長

第四十二、五十一、海軍航空廠長

沼津海軍工廠總務部長

九六式空四號無線電信機改造打切ノ件通知

昭和十六年艦本機密第三號ノ一〇六二〇通牒（昭和十六年十一月八日）（海軍公報部内限参照）首題ノ件ハ現狀ヲ以テ打切ノコトニ定メラレ候

○表彰

海軍大尉 石井信太郎

右ハ通信要具ヲ考案完成シ帝國海軍ニ貢獻スル所洵ニ大ナリ仍テ銀杯一箇ヲ授與シ茲ニ之ヲ表彰ス（九月二十一日海軍大臣）

○難款

○集會所設置

佐世保水交社鹿兒島集會所ヲ九月二十一日附鹿兒島市下荒田町

秘海軍公報 第四八二二號 昭和十九年十月九日

一三五五

天保山別館ニ設置セリ

(佐世保水交社)

○移轉

臺灣海軍航空隊本隊ハ九月十八日舊高雄海軍航空隊(高雄航空基地)ニ移轉セリ

○事務開始

第二百十九設營隊ハ九月二十七日吳海軍施設部内ニ於テ事務ヲ開始セリ

大湊海軍經理部札幌支部ハ九月二十七日左記ニ於テ事務ヲ開始セリ

記

北海道札幌市北一條西四丁目二番地

北海道商工經濟會内

大湊海軍經理部札幌支部

伊號第二百二潜水艦艇裝員事務所ヲ十月一日吳海軍工廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

(電話番号 准士官以上事務室 吳工廠 三〇〇八番 庶務同上)

○事務所撤去

第五十二號海防艦艇裝員事務所ハ九月二十五日之ヲ撤去セリ

伊號第三百七十一潜水艦艇裝員事務所ハ九月三十日之ヲ撤去セリ

リ

第三百四設營隊(横濱在勤海軍武官府氣付船舶警戒部第五兵舍内)事務所ハ十月一日之ヲ撤去セリ

第百六十號輸送艦艇裝員事務所ハ十月一日之ヲ撤去セリ

○殘務整理

呂號第五百一潜水艦殘務整理ハ第八潜水戰隊司令部ニ於テ之ヲ行フ

海軍公報 第四八二號

昭和十九年十月十日(火)
海軍大臣官房

○令 達

内令第一一四五號
除毒劑定額標準中左ノ通改正ス

昭和十九年十月一日

海軍大臣

第二號中

「三號除毒劑

(イ) 外戰部隊定員一人ニ付一疋
(ロ) 内戰部隊定員三人ニ付一疋
但シ學校、海兵團及練習航空
隊八十人ニ付一疋

「三號除毒劑

定員一人ニ付一疋
但シ海兵團練習航空隊及各種練習生ハ五
人ニ付一疋

官房設機密第一九四五號

左ノ各號ニ依リ本年内令員第一七八二號ニ依ル領海及高雄海軍
施設部教導班要員ニ對シ講習ヲ實施ス

所轄長ハ第一號ノ講習員ヲ講習開始前日迄ニ當該海軍施設部ニ
派遣スルト共ニ其ノ官階氏名ヲ講習開始三日前迄ニ當該海軍施
設部長ニ通報スベシ

昭和十九年十月六日

海軍大臣

秘海軍公報 第四八二號 昭和十九年十月十日

講習期間、場所、指導官、講習員			
講習期間	場 所	指導官	講習員
十月十五、 日曜日	吳海軍施設部教導班	首席指導官 官 當該海軍施設部長 府在籍者(施設部シ除ク)	本年内令員第一七八二號ニ依ル臨時府在籍者(施設部シ除ク)
十月十六、 月曜日	佐世保海軍施設部教導班	指導官 當該海軍施設部長 府在籍者(施設部シ除ク)	内令員第一七八二號ニ依ル臨時府在籍者(施設部シ除ク)
講習科目	講習科目	講習員	講習員
(一) 築城兵衛概要	築城施設一般及施工法	講習員ハ各種別ニ應ジ適宜取捨選擇スルコトヲ得	講習員ハ各種別ニ應ジ適宜取捨選擇スルコトヲ得
(二) 築城機械一般並ニ機械化施工法	機械化部隊指揮法	講習員ハ各種別ニ應ジ適宜取捨選擇スルコトヲ得	講習員ハ各種別ニ應ジ適宜取捨選擇スルコトヲ得
(三) 設營班ノ編制及教程標準	設營班概要	講習員ハ各種別ニ應ジ適宜取捨選擇スルコトヲ得	講習員ハ各種別ニ應ジ適宜取捨選擇スルコトヲ得
(四) 運輸、設營關係法規及ニ事務一般	運輸、設營關係法規及ニ事務一般	講習員ハ各種別ニ應ジ適宜取捨選擇スルコトヲ得	講習員ハ各種別ニ應ジ適宜取捨選擇スルコトヲ得

三 經費

- (イ) 旅費ハ各講習實施應既配付ノ臨時軍事費(款項) 雜給及雜費(目) 出張旅費(節)
- (ロ) 其ノ他ハ當該海軍施設部既配付ノ臨時軍事費(款項) 營繕費(目) 作場費(節)

官房空機密第二五四二號

昭和十八年官房空機密第一四九七號別紙中左ノ通改正ス

昭和十九年十月九日

海 軍 大 臣

二 呼稱法中(二)ヲ左ノ如ク改ム

(二) 機體發動機ノ型式標示ノ數字二字及要スレバ甲乙丙…ヲ附ス(十位ハ機體、一位ハ發動機、甲乙丙ハ兵裝ノ型ヲ示ス)

但シ兵器採用時ノ機體發動機及實用機ヲ練習機ニ改造セルモノニ對シテハ一型トス

(例) (三)ノ次ニ(四)ヲ追加ス

(四) 迅雷一二型ノ射撃兵裝ヲ變更セルモノ(機體外形ニ大ナル差異ナキモノ) 迅雷一二甲型

○ 通 牒

官房備機密第五七二號

昭和十九年十月六日

海 軍 省 副 官

各 廳 長 殿

海軍軍用郵便所ニ於テ小爲替事務取扱ニ關スル件通牒
今般海軍軍用郵便所ニ於テ左記要領ニ依リ小爲替ノ振出及拂渡事務ヲ開始セラレ候

記

- 一 現地海軍部隊(軍人、軍屬ヲ含ム)相互間ニ送受スル官公金ニ限リ取扱フモノトス
- 二 取扱料金ハ無料トス
- 三 小爲替證書有効期間ハ百二十日トス
- 四 其ノ他一般小爲替ノ例ニ依ル

水機密第二四三號ノ一

昭和十九年九月二十九日

水 路 部 長

關係各廳長殿

根室近傍地圖取扱區分變更ノ件通牒

首題ノ件ニ關シ大本營陸軍參謀部ヨリ別紙ノ通牒有之候條了知相成度

(別紙)

大本營
陸軍部參密第五二七號

根室近傍地圖取扱區分變更ノ件通牒

昭和十九年九月二十六日

大本營陸軍參謀部總務課長

水路部長殿

「軍事極秘」タル左記地圖ヲ「軍事秘密」ニ變更セラレタルニ付
依命通牒ス

追テ既ニ交付ヲ受ケアルモノハ保管者ニ於テ祕區分標記ヲ訂
正竝ニ二連番號ヲ削除シ本通牒ノ日附ヲ以テ保管原簿整理相
成度

記

五萬分一地形圖根室近傍

一〇號	厚岸	一〇號	白糠
九號	三股	一八號	舌辛
八號	霧多布	一七號	網走
七號	姉別	一六號	大森
六號	落石岬	一五號	昆布
五號	厚床	一四號	尾輪
四號	別海	一三號	標茶
三號	根室南部	一二號	磯分
二號	根室北部	一一號	床潭
一號	納沙布	一〇號	床潭

○難 款

○海軍特攻部庶務處理ノ件

海軍特攻部庶務ハ海軍潜水艦部ニ於テ處理可致ニ付海軍特攻部
宛(同部長宛ヲ含ム)ノ書類等ハ海軍潜水艦部氣付(別ニ海軍
潜水艦部宛寫一通送付ノコト)ニテ送付相成度
(海 軍 特 攻 部)

○事務開始

海防艦生名艦裝具事務所ヲ九月十日大阪市此花區櫻島南之町一
七日立造船株式會社櫻島造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

第一〇一航空戰隊司令部ハ九月十五日神奈川縣高座郡大和町厚
木海軍航空基地ニ於テ事務ヲ開始セリ

第四百一十一號輸送艦裝具事務所ヲ九月二十八日佐世保海軍工
廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

(電話番號 佐世保工廠 二二七六番)

伊號第四百一潜水艦裝具事務所ヲ十月一日佐世保工廠内ニ設
置シ事務ヲ開始セリ

(電話番號 佐世保工廠 二二七七番)

○解隊

第五五三海軍航空隊ハ九月三十日解隊
殘務整理ハ第一美幌航空基地ニ於テ之ヲ行フ

秘海軍公報 第四八三號 昭和十九年十月十日

一三五九

1474

○事務所撤去

第一一二號輸送艦機装員事務所ハ九月三十日之ヲ撤去セリ

樞機装員事務所ハ九月三十日之ヲ撤去セリ

伊號第三百七十一潜水艦機装員事務所ハ十月二日之ヲ撤去セリ

○轉勤者赴任先ニ關スル件

當分ノ間戰國第三〇三飛行隊ヘノ轉勤者ハ鹿兒島航空基地ニ向
テ赴任ノ事ニ取計相成度

(第二〇三海軍航空隊)

○正誤

秘海軍公報第四八一七號令達欄内令第一一九號中「進攻丸」
ハ「進政丸」ノ、同第四八一八號令達欄内令第一一四一號中
「第十五特別根據地隊」ハ「第十五根據地隊」ノ孰モ誤

○本日海軍公報發行セズ



海軍公報 第四八二三號

昭和十九年十月十一日(水)
海軍大臣官房

○令 達

内令第一一四六號

伊號第三百七十二潛水艦

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

昭和十九年十月二日

海軍大臣 臣

内令第一一四七號

海軍施設本部補給部規程中左ノ通改正ス

昭和十九年十月四日

海軍大臣 臣

第二條第一號及第二號中「特設海軍建築部及特設海軍設營隊」ヲ「特設海軍施設部及特設設營隊」ニ、同條第三號中「特設海軍建築部」ヲ「特設海軍施設部」ニ改ム
同條中第三號ヲ第四號、第四號ヲ第五號トシ第一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ
三 海軍施設本部配當資材ノ準備及供給ニ關スルコト

(内令提要卷一、二六ノ二頁參照)

内令第一一四八號

艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス

秘海軍公報 第四八二三號 昭和十九年十月十一日

昭和十九年十月五日

海軍大臣 臣

驅逐艦、一等秋月型ノ項中「宵月」ノ下ニ「夏月」ヲ、同松型ノ項中「橘」ノ下ニ「葛」ヲ加フ
潛水艦、一等伊二百一型ノ項中「伊號第二百四」ノ下ニ「伊號第二百五」ヲ、同伊三百六十一型ノ項中「伊號第三百七十二」ノ下ニ「伊號第三百七十三」ヲ、同三等波百一型ノ項中「波號第百」ノ下ニ「波號第百九」ノ下ニ「波號第百十」ヲ加フ
海防艦、御藏型ノ項中「御藏」ノ下ニ「久米」ノ下ニ「竹生」ヲ、「四阪」ノ下ニ「崎戸」ヲ、同第一號型ノ項中「第五十五號」ノ下ニ「第五十七號、第五十九號」ヲ、「第六十三號」ノ下ニ「第六十五號」ヲ、「第七十五號」ノ下ニ「第七十九號」ヲ、同第二號型ノ項中「第七十六號」ノ下ニ「第八十二號、第八十四號、第百二號、第百四號、第百六號」ヲ、「第百三十八號」ノ下ニ「第百四十四號」ヲ加フ
輸送艦、一等第一號型ノ項中「第十三號」ノ下ニ「第十四號、第十五號」ヲ加フ

(要内令提要卷三、三三頁參照)

内令第一一四九號

昭和十五年內令第六四六號特設海軍工作部等ノ所掌區分等ノ件

一三六一

1476

中左ノ通改正ス

昭和十九年十月五日

海軍大臣

南西方面海軍航空廠第二支廠ノ項ヲ削ル

(内令提要卷一、三八ノ五〇頁参照)

内令第一一五〇號

驅逐艦 夏 月

伊號第三百七十三潛水艦

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト假定ス

伊號第二百五十五潛水艦

波號第百八潛水艦

波號第百十潛水艦

第五十七號海防艦

第五十九號海防艦

第八十二號海防艦

第八十四號海防艦

第二百二號海防艦

第二百四號海防艦

第二百六號海防艦

第二百四十四號海防艦

右本籍ヲ吳鎮守府ト假定ス

海防艦 男 鹿

同 竹 生

同 崎 戸

第二百十九號海防艦

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト假定ス

第六十五號海防艦

第十四號輸送艦

第十五號輸送艦

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト假定ス

昭和十九年十月五日

海軍大臣

内令第一一五一號

第二百二十四號驅潛特務艇

右本籍ヲ高雄警備府ト定ム

昭和十九年十月五日

海軍大臣

内令第一一五二號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年十月五日

海軍大臣

馬公方面特別根據地隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百十六號(高)」

ノ次ニ「第二百二十四號(高)」ヲ加フ (内令提要卷三、四八ノ二九頁参照) 内令第一一五三號 特設監視艇隊編制中左ノ通改定セラル 昭和十九年十月五日 海軍大臣	第四監視艇隊ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ 海軍大臣	第五監視艇隊 海形丸、第七佳吉丸、第二千勝丸、福田丸、第一日之出丸、第一繁伍丸、第二松生丸、第三號明神丸、昭榮丸、長榮丸、第七大黒丸、第一新屋丸、第三松福丸、第一大喜丸、第二會漁丸、德壽丸、龍茂丸、第五南薩丸、第十一號佳吉丸、第三大黒丸、大鳳丸、第二號富士丸 (内令提要卷一、一五二頁参照) 内令第一一五四號 右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル 昭和十九年十月六日 海軍大臣	内令第一一五五號 右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定ム 第二百八號驅潜特務艇 右本籍ヲ鎮海警備府ト定ム 第二百五十號驅潜特務艇 昭和十九年十月六日 海軍大臣	内令第一一五六號 昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス 昭和十九年十月六日 海軍大臣 横須賀防備隊ノ項驅潜特務艇ノ欄「第二百二號(横)」ノ次ニ「第二百八號(横)」ヲ加フ 鎮海防備隊ノ項驅潜特務艇ノ欄「第百號(鎮)」ノ次ニ「第二百五十號(鎮)」ヲ加フ (内令提要卷三、四八ノ二〇頁参照) 内令第一一五七號 昭和十八年内令第二二三號航空兵器供給所名稱及所在地ノ件中左ノ通改正ス 昭和十九年十月八日 海軍大臣	秘海軍公報 第四八二三號 昭和十九年十月十一日 一三六三
---	---------------------------------------	--	--	--	--

第四十一海軍航空廠大湊補給工場	青森縣下北郡大湊町
第四十一海軍航空廠下北補給工場	青森縣下北郡田名部町
第四十一海軍航空廠千歳支廠千歳	北海道千歳郡千歳町
第四十一海軍航空廠千歳支廠美幌	北海道網走郡美幌町
第四十一海軍航空廠三澤補給工場	青森縣上北郡三澤町
第四十一海軍航空廠大湊支廠大湊	青森縣下北郡大湊町
第四十一海軍航空廠大湊支廠下北	青森縣下北郡田名部町
第四十一海軍航空廠大湊支廠三澤	青森縣上北郡三澤町
第四十一海軍航空廠千歳補給工場	北海道千歳郡千歳町
第四十一海軍航空廠美幌補給工場	北海道網走郡美幌町

(内令提要卷一、三〇ノ二四ノ一頁参照)

官房經機密第一六〇六號

臨時軍事費特別會計歳出臨時軍事費(款、項)諸支出金(目)死傷手当(節)ノ解説中「及昭和十一年勅令第四百六十六號」

ヲ「昭和十一年勅令第四百六十六號及昭和十九年勅令第五百二十六號」ニ改メ昭和十九年九月一日ヨリ之ヲ適用ス

昭和十九年十月七日

海軍大臣

官房人機密第一八四二號
本年十月十日現在第二十四海軍建設部職員タル者ハ特ニ發令セラルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ小スンダ民政部ノ各相當職員ニ補命セラレタル義ト心得ベシ
昭和十九年十月十日
海軍大臣

官房經機密第一六一〇號
昭和十九年官房經機密第一二二三號中左ノ通改正ス
昭和十九年十月十日
海軍大臣

第三號ニ左ノ一號ヲ加フ
(ル) 其ノ他 雜給及雜費、家屋其他借料

(參照) 昭和十九年官房經機密第一二二三號ハ寄宿舎ニ收容ノ雇員傭人及工員(職員ヲ含ム)ニ寢具損耗料ヲ支給スルノ件ナリ(昭和十九年八月十三日秘海軍公報)

○ 雜 款

○ 正誤
十月五日附秘海軍公報雜款欄軍機秘海軍公報第二〇號(乙配付)配付先ノ項「各鎮守府、各警備府(除海南)」ハ「各司司令部」ノ誤

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp>

關係各廳長殿

俸給家族下渡實施細目ノ件改正ノ件通牒

昭和十九年經給第一一四號中左ノ通改正ス

十五 家族住所ヲ移轉シタルトキハ下渡廳ハ關係主計長ノ變更通知書ヲ俟ツコトナク家族ノ申出ニ依リ移轉先ニ送金スルコト

十六 規則第十七條ノ規定ニ依ル家族下渡現在員調ヲ送付スルトキハ家族渡ヲ爲サザル者ノ名簿(理由附記)ヲ添付スルコト

(參照) 昭和十九年七月十八日海軍公報

航本機密第一二六五二號

昭和十九年十月十日

關係各廳長殿

海軍航空本部總務部長

試製紫電用「プロペラ」角度ニ關スル件照會

首題ノ件過回轉防止裝置ノ作動確認ヲ容易ナラシムル爲自今左記ニ依リ使用ノコトニ定メラレ候

記

項 目	舊 角 度	新(訂正)角 度	記 事
高 節	六十六度	六十四度	上記變更ニヨリ飛行機使用上支障ヲ生ズルコトナシ
低 節	二十六度	二十四度	
機構式ピッチ制限裝置作動角度	二十四度	二十二度	

○ 難 款

合同海軍葬儀執行

期 日 及 時 刻	大東亞戰爭戰歿者	喪葬管理者	場 所	記 事
十月十九日、〇九〇〇	故海軍少將加藤良之助外諸勇士	吳海軍人事部長	吳軍港第一練兵場	佛式
十月二十一日、一〇一五	故海軍少將村田利男外諸勇士	橫須賀海軍人事部長	橫須賀海兵團	同
十月三十一日、〇九三〇	故海軍大尉徳山雄逸外諸勇士	岡山地中海軍人事部長	岡山市山下國民學校	同

○本日軍機秘海軍公報第二一號(乙配付)發行セリ
配付先

各司令部、各航空廠、同支廠、航空技術廠、同支廠



海軍公報

第四八二五號

昭和十九年十月十三日(金)

海軍大臣官房

○令 達

官房需第二四八號

達第二九六號ニ依ル經營需品定額表中改正ニ伴ヒ軍用机甲ニ對スル定數ハ從來ノ机甲同丙及同申ノ定數ヲ合算シタルモノトス

昭和十九年十月十一日

海軍大臣

官房需第四〇四號

戰時海軍工作廳工事費規則特例中左ノ通改正ス

昭和十九年十月十一日

海軍大臣

第三號書式ヲ別紙ノ如ク改ム

(別紙添)

(昭和十九年八月二十七日官房需第三五九號參照)

○通 牒

軍務一機密第九七三號

昭和十九年十月十二日

海軍省軍務局長

各 廳 長 殿

海軍公報 第四八二五號 昭和十九年十月十三日

海軍刀整備並ニ頒布ニ關スル件照會

首題ノ件ニ關シテハ本年官房軍機需第八八號ヲ以テ處理シ來リタル處今般漸ク計畫生産量(月産二、五〇〇口)ノ整備ニ到達セルモ生徒、學生等ノ卒業員數激増ニ伴ヒ大口需要殺倒シツツアル爲各地水交社ニ於ケル頒布ヲ潤澤ナラシムルガ如キハ明年中期頃迄ハ望ミ得ザル狀況ニ在リ而モ緊急戰備ノ完遂上資材勞務ノ極度ニ逼迫シアル此ノ際更ニ現生産計畫ヲ増強スルハ適當ト認メ難キニ付當分ノ間左記ニ依リ處理致度候條可然協力指導方取計相成度

記

- 一 現生産計畫遂行ニ對シ今後豫想セラルル各般ノ隘路ハ速ニ之ヲ打開シ整備數量ノ確保ヲ期ス
- 二 生産ノ主務ヲ艦政本部トス
依テ外裝用資材中軍需局調達ニ屬スルモノハ速ニ其ノ梓ヲ艦政本部ニ移管ス
- 三 軍刀用袋ノ生産ニ關シ左ノ通改ム
(イ) 現用西陣織ノ華美ナルモノ(評判極メテ良キモ)ハ示達濟ノ二萬本分ヲ流ス外當分ノ間之ガ生産ヲ停止ス
(ロ) 爾後ハ絹無地ノ簡素ナル袋ヲ以テ代換スル如ク軍需局ニ於テ研究決定ス
- 四 配給、販賣等ニ關スル中央事務ノ主務ヲ軍需局トシ之ガ實

1482

一三六七

主計長主管艦營需品定額表定數ニ關スル件申進

○ 雜 款

番號	種	別	期日	場	所	員數	記	事
一	船長	對潜替戒	〇〇・二	潜	校約	二五	第三次第一回	
二	船長機關長對潜替戒	機動・淡煙鉄火	(下旬)	潜	校約	三〇	第二次第一回	
三	船舶通信士電探	〇〇・二	横	通約	二五	第三次第二回		

○十月中ニ於ケル海事關係員ニ對スル諸講習實施豫定表

四	運轉士見張術 (一)運 二	航	校	約三五	第二次第三回
五	運轉士機關士應急術 (一)運 二	航	校	約三五	第二次第三回
六	船員應急術講習 (一)運 二	航	校	約三六	第一次第一回
七	高等船員水測講習 (一、二、三運)	横	防	約三〇	第三次第三回
八	普通船員水測講習 (一、二、三運)	横、伊、佐、紀 各防及潜水	校	各約五〇	第六次第二回
九	普通船員水測講習 (一、二、三運)	伊、佐、紀 各防及潜水	校	各約五〇	第六次第三回
一〇	船舶機關長及操機長 (一、二、三運)	工機校	約三〇	第四次第二回	
一一	船員應急術火測講習 (一、二、三運)	工機校	約四〇	第二次第一回	

備考
十月十日ヨリ青函連絡船機關科職員ニ對シ函館ニ於テ工機校教官派遣ノ下ニ回罐淡煙艇火(基本操作及訓練)ノ講習ヲ實施中

(海軍省教育局)

○書類(除兵備品)引繼ニ關スル件
本日附第三航空戰隊司令部ハ解散シ第一航空戰隊司令部新設セラレタル所從來第三航空戰隊司令部ニ配布又ハ貸與シアル首題物件ハ總テ當部ニ引繼受領セシニ付了承相成度
(第一航空戰隊司令部)

○開隊
小富士海軍航空隊ハ十月一日福岡縣糸島郡前原町ニ開隊セリ

秘海軍公報 第四八二五號 昭和十九年十月十三日

一三六九

追テ同日附ヲ以テ福岡海軍航空隊小富士分遣隊ハ解隊セリ

第一〇二三海軍航空隊ハ十月一日千葉縣木更津航空基地ニ開隊セリ

追テ當隊ヘノ轉勤者ハ木更津航空基地ニ向ケ赴任セシメラレ度

大和田通信隊大平分遣隊ハ十月十日千葉縣山武郡大平村ニ開隊セリ

○家族移轉料支給ニ關スル件

首題ノ件ニ對シテハ昭和十九年官房經第八八號第十三條第一項(ロ)ニ該當シ支給セラレザリシ所昭和十九年九月官房經第九〇六號ニ依リ支給ノ件認許セラレタルニ付轉勤者ニ對シテハ家族移轉料支給ノコトニ取計ハレ度
(埼玉縣北足立郡大和田町 大和田通信隊)

○基地移轉

大村海軍航空隊濟州島分遣隊ハ十月三日左ニ移動セリ

朝鮮慶尙南道金海郡大渚面(釜山航空基地)

京義線龜浦驛ヨリ徒步約一時間

○事務開始

第十三號輸送艦機裝具事務所ヲ十月五日三菱重工業株式會社横濱造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○殘務整理

第四百十三防空隊ハ八月五日付解隊殘務整理ハ菲島海軍航空隊
内ニ於テ之ヲ行フ

海軍中尉高橋重雄外四名九月二十四日飛行訓練中事故ノ
爲殉職十月七日一三〇〇ヨリ香取航空基地ニ於テ佛式ニ
依リ海軍葬儀ヲ執行セリ

(第七五二海軍航空隊香取派遣隊)



海軍公報

第四八二六號

昭和十九年十月十四日(土)

海軍大臣官房

○令 達

内令第一一五八號

潜水隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十九年十月八日

海軍大臣

第十五潜水隊ノ項中「伊號第四十六」ノ下ニ「伊號第四十七」ヲ加フ

(内令提要卷一、七〇頁参照)

官房艦第四〇八號

當分ノ開海軍省經理局ニ於ケル海軍艦政本部及海軍航空本部關係註文工事ノ監督官監督検査委託ハ内國註文造船造兵工事物件監督検査委託規程第四條ノ規定ニ拘ラズ海軍艦政本部及海軍航空本部ヨリ海軍監督官事務所ニ送付ノ「契約書寫又ハ契約ノ豫報」ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

昭和十九年十月十三日

海軍大臣

○通 牒

官房軍機密第一三〇八號

昭和十九年十月十三日

關係各廳長殿

海軍省副官

海軍省第十一分室呼稱ニ關スル件通牒

當分ノ開神奈川縣横濱市港北區日吉町慶應大學豫科構内ニ部隊ヲ置カレタル場合共ノ施設ヲ海軍省第十一分室ト呼稱スルコトニ定メラレ候

兵備三機密第九八八號

昭和十九年十月十三日

海軍省兵備局

關係各廳御中

徵備船舶名變更ノ件通知

同名ノ徵備船ニ付左記ノ通船名變更セラレ候

記

固有船名	船舶番號	改 名
旭丸	四六二五一	い 號 旭丸
第二伊勢丸	四三五〇一	い 號 第二伊勢丸
伊勢丸	六四五八	い 號 伊勢丸
榮福丸	一五六九四	ろ 號 榮福丸
榮福丸	一〇八一五	は 號 榮福丸

秘海軍公報 第四八二六號

昭和十九年十月十四日

一三七

1486

1487

大	和	丸	四一〇六五	は	號	大	和	丸
吉	野	丸	三八〇四八	い	號	吉	野	丸
龍	神	丸	四三八〇〇	に	號	龍	神	丸

○ 雜 款

○ 辭令公報發送

昭和十九年度後期下士官任用進級辭令
右外戰部隊ニ對シテハ九月三十日發送済

追テ未到達ノ向ハ最寄艦隊司令部、根據地隊司令部、補充部
其ノ他陸上各部ニ就キ調査セラレ度

(舞鶴海軍人事部)

○ 學生入校期

昭和十九年官房人機密第三一三號ニ依ル第二十六期特修科學生
(艇長) 及昭和十八年官房人機密第四一五號ニ依ル第二十七期
特修科學生(對潛)ハ十一月四日(土)始業ニ付其ノ前日迄ニ
着校セシメラレ度

(海軍對潛學校)

○ 移轉

臺灣海軍航空隊本隊ハ九月十八日舊高雄海軍航空隊(高雄航空
基地)ニ移轉致候條自今當隊宛轉勤者ハ左記ニ依ラレ度

記

(島内) 高雄岡山郡岡山街彌陀庄イ二二八

(岡山驛下車徒歩約四十分)

(島外) 鹿兒島縣鹿屋航空基地氣付 イ二二八

(臺灣海軍航空隊)

○ 事務開始

第六十號海防艦艇裝具事務所ヲ十月五日神戸市兵庫區東出町一
丁目神戸海軍監督官川崎出張所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○ 殘務整理

第四百十八防空隊ハ九月十五日解隊、殘務整理ハ九州海軍航空
隊鹿屋派遣隊内ニ於テ之ヲ行フ

○ 正誤

九月二十五日附秘海軍公報第四八〇八號令遠欄海軍戰時特例給
與規則中改正「第四表ノ六ヲ第四表ノ七トス」ハ「第四表ノ六
中第四表ノ五ヲ第四表ノ六ニ改メ同表ヲ第四表ノ七トス」ノ誤

○ 本日軍機秘海軍公報第二二號(甲配付)發行セリ



海軍公報

第四八二七號

昭和十九年十月十五日(日)
海軍大臣官房

○令 達

内令第一一五九號
艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和十九年十月十日

海軍大臣

軍艦、巡洋艦二等長良型ノ項中「長良」、「名取」ヲ、同航空母艦大鷹型ノ項中「大鷹」、「同敷設艦ノ部中「白鷹」ヲ削ル

驅逐艦、一等神風型ノ項中「朝風」、「夕風」ヲ、同初雪型ノ項中「敷波」ヲ、同白露型ノ項中「五月雨」ヲ、同松型ノ項中「松」ヲ削ル

潛水艦、一等伊十型ノ項中「伊號第十」ヲ、同伊十七型ノ項中「伊號第二十九」ヲ、伊十六型ノ項中「伊號第十六」ヲ、同伊五十二型ノ項中「伊號第五十五」ヲ、同二等呂三十五型ノ項中「呂號第四十八」ヲ、同呂五百型ノ項中「呂號第五百」ヲ削ル

海防艦、古守型ノ項中「松輪、佐渡」ヲ、同御藏型ノ項中「日振」、「草垣」ヲ削ル

輸送艦、一等第一號型ノ項中「第二號」、「同三等第百一號」ヲ、同第二十九號型ノ項中「第三十三號」、「第百五十二」ヲ削ル

號」ヲ削ル

掃海艇、第十九號型ノ項中「第二十八號」ヲ削ル
驅潜艇、第一號型ノ項中「第六號」ヲ削ル

(内令提要卷三、三三頁参照)

内令第一一六〇號

特務艦類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和十九年十月十日

海軍大臣

運送艦、知床型ノ項中「鶴見」ヲ、同

「速吸」ノ項ヲ削ル

(内令提要卷三、四一頁参照)

内令第一一六一號(軍極秘海軍公報(乙配付)ニ掲載)

内令第一一六二號

驅逐隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十九年十月十日

海軍大臣

第十九驅逐隊ノ項ヲ削ル

祕海軍公報 第四八二七號

昭和十九年十月十五日

一三七五

1490

第二十七驅逐隊ノ項ヲ削ル
第三十驅逐隊ノ項中「夕風」ヲ削ル
第四十三驅逐隊ノ項中「松」ヲ削リ「根」ヲ下ニ「桐」ヲ加フ

(内令提要卷一、六八頁参照)

内令第一一六三號
潛水隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十九年十月十日

海軍大臣

第十五潛水隊ノ項中「伊號第十六」、「伊號第二十九」及「伊號第五十五」ヲ削ル
第三十四潛水隊ノ項中「昌號第四十八」ヲ削ル

(内令提要卷一、七〇頁参照)

内令第一一六四號

砲艦隊編制中左ノ通定メラル

昭和十九年十月十日

海軍大臣

砲艦隊編制	
隊名	砲艦名
第一砲艦隊	伏見、隅田

内令第一一六五號

第二十一砲艦隊	勢多、堅川
第二十二砲艦隊	比良、保津
第二十三砲艦隊	熱海、二見
第二十四砲艦隊	鳴海、多良

右帝國軍艦籍ヨリ除カル

吳鎮守府在籍 軍艦 白鷹	佐世保鎮守府在籍 軍艦 大鷹	舞鶴鎮守府在籍 軍艦 長良	橫須賀鎮守府在籍 驅逐艦 朝風	吳鎮守府在籍 驅逐艦 五月雨	佐世保鎮守府在籍 驅逐艦 敷波	舞鶴鎮守府在籍 驅逐艦 夕風
-----------------	-------------------	------------------	--------------------	-------------------	--------------------	-------------------

舞鶴鎮守府在籍 驅逐艦 松	右帝國驅逐艦籍ヨリ除カル	横須賀鎮守府在籍 伊號第十六潜水艦	呂號第五百一潜水艦	吳鎮守府在籍	伊號第二十九潜水艦	伊號第五十五潜水艦	佐世保鎮守府在籍	伊號第十潜水艦	舞鶴鎮守府在籍	呂號第四十八潜水艦	右帝國潜水艦籍ヨリ除カル	佐世保鎮守府在籍	海防艦 松輪	海防艦 佐渡	海防艦 日振	舞鶴鎮守府在籍	海防艦 草垣	右帝國海防艦籍ヨリ除カル	横須賀鎮守府在籍	第二號輸送艦
吳鎮守府在籍 第五百十二號輸送艦	佐世保鎮守府在籍 第二百二十九號輸送艦	第三百三十三號輸送艦	右帝國輸送艦籍ヨリ除カル	横須賀鎮守府在籍	第二十八號掃海艇	右帝國掃海艇籍ヨリ除カル	佐世保鎮守府在籍	第六號驅潜艇	右帝國驅潜艇籍ヨリ除カル	佐世保鎮守府在籍	特務艦 速吸	舞鶴鎮守府在籍	特務艦 鶴見	右帝國特務艦籍ヨリ除カル	昭和十九年十月十日	海軍大臣	内令第一一六六號	特設監視艇隊編制中左ノ通改定セラル	昭和十九年十月十日	海軍大臣

第三監視艇隊ノ項中「第三愛宕丸」ヲ削ル
第四監視艇隊ノ項中「大信丸」ヲ削ル

(内令提要卷一、一五二頁参照)

内令第一一六七號

昭和十八年内令第二五六號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年十月十日

海軍大臣

横須賀防備隊ノ項特設驅潜艇ノ欄「第五昭南丸(横)」ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ二九頁参照)

内令第一一六八號

右特設掃海母艦トシ吳鎮守府所管ト定メラレタル處之ヲ解カル
汽船 永興丸

汽船 第五昭南丸

右特設驅潜艇トシ横須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

漁船 第三愛宕丸

漁船 大信丸

右特設監視艇トシ横須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

汽船 帝洋丸

右特設運送船(給油船)トシ吳鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

昭和十九年十月十日

海軍大臣

船名	特設艦船種別	所管
同 船 喜久丸		
同 第一高知丸		
同 第六虎丸		
同 第一親船丸		
同 第一源勝丸		
同 第五幸神丸		
同 大孝丸		
同 第二金勝丸		
同 第十八號佳吉丸	特設監視艇	横須賀鎮守府
同 第一號大晴丸		
同 第十二事代丸		
同 第二振興丸		
同 第十五振興丸		
同 新山丸		

同 第五萬榮丸 同 第五號鹿島丸 同 第六勇喜丸 同 第十號大黒丸	内令第一一七〇號 潜水隊編制中左ノ通改定セラル 昭和十九年十月十日 海軍大臣 第三十三潜水隊ノ項中「呂號第六十二」ヲ削ル (内令提要卷一、七〇頁参照)	内令第一一七一號 右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル 舞鶴鎮守府練習兼整備潜水艦 呂號第六十二潜水艦 右整備潜水艦ト定メラル 昭和十九年十月十日 海軍大臣 内令第一一七二號 昭和十九年内令第四三九號別表中左ノ通改正ス 昭和十九年十月十日	秘海軍公報 第四八二七號 昭和十九年十月十五日
第二十七魚雷艇隊ノ項中「814」ノ下ニ「815 816 817」ヲ、「823」ノ下ニ「826 834 835」ヲ加フ (内令提要卷三、四八ノ二七頁参照) 海軍大臣	内令第一一七三號 南西方面海軍民政部令中左ノ通改正セラル 昭和十九年十月十日 海軍大臣 第二條中「フロレス島以東ヲ除ク」ヲ削ル (内令提要卷一、三〇ノ七三頁参照)	内令第一一七四號 南西方面海軍民政部令中左ノ通改正セラル 昭和十九年十月十日 海軍大臣 第二條表小スング民政部ノ項中管轄區域ノ欄「フロレス島以東ヲ除ク」ヲ削ル 別表中小スングノ欄「六十七」ヲ「九十四」ニ、「二百十」ヲ「二百六十」ニ、「二百八十一人」ヲ「三百五十八人」ニ改ム (内令提要卷一、三〇ノ八三頁参照)	内令第一一七五號 特設海軍航路部等ノ所管、所屬、名稱及所在地ノ件申左ノ通改

正セラル 昭和十九年十月十日 海軍大臣 吳鎮守府所管ノ部中 根拠地隊 第二十四海軍建設部 ヲ削ル (内令提要卷一、三八ノ四〇頁参照)	内令第一一七六號 昭和十五年內令第六四六號特設海軍工作部等ノ所掌區分等ノ件 中左ノ通改正ス 昭和十九年十月十日 海軍大臣 第二十四海軍建設部、第二十四海軍建設部ターバン支部及第二十四海軍建設部ワインガツプ支部ノ各項ヲ削ル (内令提要卷一、三八ノ四九頁参照)	内令第一一七七號 海軍航空隊ノ所管、名稱及所在地又ハ原駐基地ノ件申左ノ通改正セラル 昭和十九年十月十日 海軍大臣 佐世保鎮守府ノ部中第七六三海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ
第七六三海軍航空隊 富崎航空基地(當時縣富崎郡) (内令提要卷一、三〇ノ三九頁参照) 内令第一一七八號 三式二號測程儀教範別冊ノ通定ム 別冊ハ海軍文庫シテ所要ノ向ニ之ヲ配付セシム 昭和十九年十月十日 海軍大臣	官房經第九四九號 當分ノ間各學校ノ分校(部内限呼稱ノモノヲ含ム)ニ於テ要スル通常物品ハ各其ノ本校ト別個ニ之ヲ保管出納ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該分校勤務ノ教頭又ハ之ニ準ズル者ヲ通常物品出納命令官、分校勤務ノ首席主計科士官ヲ通常物品會計吏トス 昭和十九年十月十四日 海軍大臣	○通牒 恩第三二七號 昭和十九年十月十四日 海軍省人事局 關係各廳御中

恩給年敘勳年加算一覽ノ件通知
支那事變及大東亞戰爭關係地域別恩給年、敘勳年加算一覽表別紙ノ通ニ有之候爲參考
(別紙添)

海人機密第一八〇號

昭和十九年十月四日

海軍省人事局長

關係各廳長殿

豫備士官電報區別符竝ニ席次ニ關スル件申改
正ノ件通牒

海人機密第八二號ニ依ル首題ノ件左記ノ通改メラレ候條了知相
成度

記

一 電報區別符ノ項ニ

一般要務班 ヱム

分隊士等ノ要務專修者

ヲ追加ス

二 艦艇班專修科目ノ欄ヲ「航海學校、水雷學校、對潜學校、
橫須賀砲術學校、吳練習戰隊等ニ於テ艦艇乗員ノ教程(講習)
ヲ受ケタル者」ニ改ム

經艦機密第三號ノ三六

昭和十九年十月三日

海軍省經理局長

秘海軍公報 第四八二七號

昭和十九年十月十五日

聯合艦隊參謀長
聯合艦隊主計長
海上護衛參謀長 殿

艦隊經費分任出納官吏ノ呼稱等ニ關スル件照會

本年官房經機密第一一八八號ニ依リ主計科准士官以上ノ配員ヲ
キ艦船部隊等ノ支拂ニ屬スル經費掌理ノ爲聯合艦隊又ハ海上護
衛總司令部附ヲ兼務セル陸上各部勤務ノ主計科士官艦隊經費
分任出納官吏ヲ命ゼラルトキハ當該地名ヲ冠シ、方面陸上
臨時分任出納官吏(例、昭南方面陸上臨時分任出納官吏)ト呼
稱スルモノトシ掌理セシムベキ艦船部隊ヲ指定セラルモノニ
付テハ海軍大臣及海軍經理部長ニ對スル報告又ハ通知ニ當該艦
船部隊名ヲ附記スルコトニ取計相成度

○雜 款

○司令驅逐艦變更

第三十驅逐隊司令ハ九月二十日司令驅逐艦ヲ夕月ニ變更セリ
追テ關係書類ハ各艦宛寫ヲ送付相成度

○基地移轉

當隊九月十五日左記ニ移轉ニ付轉勤者ハ日豐線都城驛下車赴任
ノコトニ取計ヲ得度

記

宮崎縣都城市 都城航空基地氣付 ヲ參九七

(第一四一海軍航空隊)

一三八一

○事務所移轉 十月三日第四十一海軍航空廠本廠ヲ大湊ヨリ千歳ニ移シ事務ヲ開始セリ本廠、支廠、分工場所在地左ノ通 第四十一海軍航空廠 北海道千歳郡千歳町 第四十一海軍航空廠美幌分工場 北海道網走郡美幌町 第四十一海軍航空廠大湊支廠 青森縣下北郡大湊町 第四十一海軍航空廠大湊支廠三澤分工場 青森縣上北郡三澤村 (第四十一航空廠)	○移轉 第三百二十八設營隊ハ九月二十八日大村市ヨリ吳海軍施設部内ニ移轉セリ(吳線廣驛下車徒歩約十分)	○事務開始 第二百七號海防艦艇裝具事務所ヲ九月十六日大阪市西成區北加賀屋町二一一浪速船渠株式會社内ニ設置シ事務ヲ開始セリ 第一百十二號海防艦艇裝具事務所ヲ九月二十五日大阪府泉南郡多奈川町川崎重工業泉州分工場内ニ設置シ事務ヲ開始セリ 第四百四十一號輸送艦艇裝具事務所ヲ九月二十八日佐世保海軍工廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ (電話 工廠一二七六) 波號第四百四潛水艦艇裝具事務所ヲ十月七日三菱重工業株式會社	神戸造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ	○事務所撤去 第五十四號海防艦艇裝具事務所ハ九月二十九日之ヲ撤去セリ	○殘務整理 第二十四設營隊ハ九月五日解隊殘務整理ハ第二百一設營隊内ニ於テ之ヲ行フ	○電話新設 電話 臺北 七九三三 (臺北地方海軍人事部)	○本日軍機秘海軍公報第二三號(乙配付)發行セリ 配付先 各司令部、各航空隊、同支廠、航空技術廠、同支廠	○本日海軍公報發行セズ
---	--	--	--------------------------	--	--	---	--	--------------------

秘

海軍公報 第四八二八號

昭和十九年十月十六日(月)
海軍大臣官房

○令 達

達第三四六號

海軍徵備船舶船員給與規則中左ノ通改正ス

昭和十九年十月十五日

海軍大臣 臣

第十一條ノ四 甲船員乗船中引續キ三月ヲ超エテ内地(北海道、本州、四國及九州ヲ謂フ以下之ニ同ジ)外ノ區域ニ航海シタルトキハ内地最終港灣ヲ離レタル日ノ翌日より起算シ最初ノ三十日間ハ報酬又ハ給料ノ一割、其ノ後ノ期間ニ在リテハ三十日毎ニ報酬又ハ給料ノ一割ニ相當スル金額ヲ累加シタル金額ヲ長期就航手當トシテ支給ス但シ其ノ金額報酬又ハ給料ノ十五割ニ相當スル金額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十一條ノ五 前條ノ規定ニ該當スル甲船員内地沿岸外ニ於テ船舶ノ沈没其ノ他不可抗力又ハ公務ニ原因スル傷病疾病ニ依リ其ノ配置ヲ離レタルトキハ内地到着ノ日迄ノ期間ニ付テハ引續キ乗船シタルモノト看做ス

第十一條ノ六 長期就航手當ハ公務又ハ不可抗力ニ因ルニ非ズシテ配置ヲ離レタルトキハ其ノ日ノ翌日より復歸ノ前日迄之ヲ支給セズ敵ノ俘虜ト爲リタルトキ亦同ジ

第十一條ノ七 長期就航手當ハ内地港灣歸着ノ際之ヲ支給ス

秘海軍公報 第四八二八號 昭和十九年十月十六日

附 則

本令ハ昭和十九年一月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス
本令適用ノ日現ニ内地外ノ區域ニ在リタル甲船員ニ對シテハ第十一條ノ四ノ規定ノ適用ニ付同船員ノ内地最終港灣ヲ離レタル日ノ翌日より其ノ期間ヲ起算ス但シ昭和十九年一月一日前ノ航海期間ニ對シテハ長期就航手當ハ之ヲ支給セズ

(參照) 海軍機密會計法規類集一三二頁

官房機密第一六一九號

昭和十六年官房機密第一二六三九號中左ノ通改正ス

昭和十九年十月十二日

海軍大臣 臣

第一項第一號中「修學中ノ者」ノ下ニ「新兵並ニ甲種及乙種豫科練習生ヲ含ム以下之ニ同ジ」ヲ加ヘ同項第二號中「又ハ奄美大島以南ノ琉球諸島」ヲ「伊豆諸島、種子島以南ノ薩南諸島又ハ琉球諸島」ニ改メ同項第六號中「通信隊」ノ次ニ「海兵團」ヲ加フ

第二項中「俸給ノ五分ノ一」ノ下ニ「准士官以上、候補生及見習尉官」ヲ増俸月額十九圓ニ滿タザルトキハ月額十九圓ニヲ加フ

一三八三

1498

第三項ヲ左ノ如ク改ム

第一項ノ増俸ヲ受クル者公務ニ起因スル傷痍疾病ニ依リ戰地
外ニ於テ入院シ又ハ治療ヲ受クル爲勤務ニ服セザルトキハ指
定地ニ到着又ハ入院若ハ受療ノ日ノ翌日ヨリ出務ノ日ノ前日
迄前項ニ定ムル増俸ヲ支給ス
第二項ノ増俸ヲ受クル者公務ニ起因セザル傷痍疾病ニ依リ戰
地外ニ於テ入院シ又ハ治療ヲ受クル爲勤務ニ服セザルトキハ
指定地ニ到着又ハ入院若ハ受療ノ日ノ翌日ヨリ出務ノ日ノ前
日迄増俸ヲ停止ス

附則

本令ハ昭和十九年十月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス但シ第一
項第二號ノ改正規定ハ昭和十九年九月一日以後ノ給與ニ付之ヲ
適用ス

(參照) 昭和十六年官房機密第一二六三九號ハ戰地ニ在ラザルモ特
別ノ命令ニ依リ對敵ノ行動ヲ取ル者ノ給與ノ件ナリ
海軍機密會計法規類集一八九頁

○ 通 牒

教育機密第三五五號

昭和十九年十月十四日

關係各廳長殿

海軍省教育局長
海軍省人事局長

海軍豫備員タル通信關係應召准士官及下士官ノ
各部配屬中ニ於ケル教育指導等ニ關スル件申進

今般海軍豫備練習生教程履修ノ官立無線電信講習所卒業者タル
首題准士官及下士官ヲ充員召集ノ上各海上護衛隊、通信隊及在
動武官府等ニ配員セシメラルコト相成候處右ハ今年初メテ
海軍豫備員令ヲ適用セラレタルモノニシテ軍事教育トシテハ横
須賀海軍通信學校ニ於テ約五月中(自四月中旬)ノ教育ヲ受ケ
タルノミナルト將來召集解除後ハ直チニ船舶無線通信士ノ職ニ
就クベキ者ナルニ付テハ各部配屬中ノ教育指導等ニ關シ左記配
慮ノ上然ルベク取計相成度

記

- 一、一般ニ若年ニシテ實務ノ經驗ナキニ付當初ハ概ネ准士官ニ
在リテハ一等下士官、上等兵曹ニ在リテハ二等下士官ノ實務
ヲ體驗セシメ逐次上級階級ノ配置ノ業務ニ就カシムル如クシ
概ネ四月ノ修練ニヨリ兵曹長又ハ上等下士官トシテノ職能ヲ
修得セシムル如ク指導スルコト
- 二、海軍軍事一般ニ關スル職能尙不充分ニ付各部配屬中極力實
地實物ニ就キ之ヲ教育ヲ行フコト
- 三、召集解除後ノ業務配置ニ鑑ミ主トシテ左ノ如ク對船舶通信
又ハ護衛關係ノ通信配置ニ就カシムルコト
- (イ) 保有通信技術ノ低下ヲ防止スルタメ事務的配置ニ充ツル
コトナク實務配置ニ就カシムルコト之ヲ爲准士官ト雖モ無
線電信當直ニ立タシムルコト

(ロ) 在勤武官府等ニ配セラレタル者ハ一般船舶ノ通信術指導
ニ當ラシムルハ差支ナキモ前項同様交信當直ニ立タシムル
カ又ハ送受信技術訓練ヲ勵行スルコト

航本機密第一二八四一號

昭和十九年十月十五日

海軍航空本部總務部長

關係各廳長殿

三式電氣發火裝置(三十一號爆彈用)用蓄電池及乾電池取扱ニ關スル件照會

近ク供給豫定ノ首題品ハ其ノ機能上保管取扱竝ニ使用ニ際シ左ノ點留意ヲ要スルニ付可然取計相成度詳細ハ三式電氣發火裝置取扱説明書及三式八〇番(二五番)三十一號爆彈一型取扱説明書(所要ノ向ニ配付ス)ヲ参照相成度

一 三式電氣發火裝置用蓄電池ハ初度充電済ノモノヲ供給スルモ月二回以上補充電手入ヲ要ス充電ニハ三式電氣發火裝置用小型充電器(多數同時ニ充電ノ際ハ一般用充電器ニテ可、但シ此ノ場合充電電流ニ就テハ特ニ注意ヲ要ス)ヲ使用ノコト備考

三式電氣發火裝置用蓄電池要目

電 壓

一二V

電液比重

一、三〇—一、三二

補充電電流

約一A同時時間六—八時間

容量(常溫)

一〇Aニテ約一〇分間

二 三式電氣發火裝置用乾電池ハ高溫高濕ノ場所ヲ避ケ通風良キ處ニ格納保管ヲ要ス

尙本乾電池ハ零下一五度以下ノ使用ニ耐エズ

三 第二項ノ貯藏ヲ爲スモ本乾電池ハ變質、消耗等ニヨリ其ノ命數ハ約二ヶ月ナルヲ以テ附屬ノ試験器ニ依ル檢査ヲ勵行シ電壓一個ニ付六五—七五V(計器赤印範圍)ニアラザル場合新品ト引換ヲ要ス

○ 難 款

○機密圖書、圖誌供給(送付)ニ關スル件照會

首題ノ件南西方面艦隊司令部及第三南遣艦隊司令部宛供給(送付)ノ圖書、圖誌等ハ重複スルヲ以テ自今南西方面艦隊司令部宛ノモノノミ供給(送付)ノコトニ取計相成度
(南西方面艦隊兼第三南遣艦隊副官)

○事務開始

大濱艦裝具事務所ヲ十月一日横濱市中區綠町三菱造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

第二百三十號驅潛特務艇裝具事務所ヲ十月七日舞鶴海軍工廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

第四百十四號輸送艦裝具事務所ヲ十月七日大阪市港區南福崎町

秘海軍公報 第四八二八號

昭和十九年十月十六日

一三八五

1500

秘

海軍公報 第四八二九號

昭和十九年十月十八日(水)
海軍大臣官房

○令 達

達第三四七號

海軍工員戰時特例給與規則左ノ通定ム

昭和十九年十月十四日

海軍大臣

海軍工員戰時特例給與規則

第一條 海軍工員及鑛員(以下單ニ工員ト稱ス)ニシテ海軍戰時特例給與規則第一條ニ掲グル地(以下戰地ト稱ス)ニ在ルモノ、派遣セラルルモノ若ハ一時往復スルモノ又ハ戰地派遣ノ艦船ニ乗組ノモノ若ハ戰時編制ニ依ル艦船ニ乗組ノモノノ給與ハ本則ニ依ル本則中特ニ定メタルモノノ給與ニ付亦同ジ本則ニ明文ナキモノニ付テハ現行ノ諸規定ニ依ル、

第二條 前條第一項前段ノ規定ニ該當スル工員ノ給料、増給、乗艦加給及臨時手當ハ廳長必要ト認メタルトキハ月ノ十六日以後ニ於テ其ノ月分ヲ支給スルコトヲ得

戰地ト戰地外トノ間又ハ戰地相互間ヲ轉用スル工員ノ給料ハ出發ノ月ノ末日迄出發廳(派遣元廳ヨリ戰地ニ派遣セラルル者ニ在リテハ派遣元廳)ニ於テ之ヲ支給ス

前項ノ規定ニ依リ前勤務廳ニ於テ支給シタル給與ニシテ前勤務廳出發後發生シタル事由ニ因リ過拂又ハ不足拂ト爲リタルト

キハ後勤務廳ニ於テ之ヲ處理スルモノトス

第三條 第一條第一項前段ノ規定ニ該當スル工員ノ給料、増給、乗艦加給及臨時手當ハ其ノ月分ヲ含ミ三月分以内ニ於テ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第四條 艦船ノ破壊、沈没其ノ他公務上ノ非常ノ災害ニ因リ廳長必要アリト認メタルトキハ工員ニ對シ給料、増給、乗艦加給及臨時手當ノ一月分ヲ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第五條 第一條第一項前段ノ規定ニ該當スル工員ニハ第一表ニ依リ増給ヲ支給ス

第六條 第一條第一項前段ノ規定ニ該當スル工員ノ給料及増給ハ故意又ハ自己ノ重大ナル過失ニ依ル傷痍疾病ニ因リ休業スル期間ヲ除キ日數ニ應ジ之ヲ支給ス但シ増給額ニ異動ヲ生ジタル當日ハ多額ニ依ル

前項ノ増給ハ戰地ニ向ケ出發スル者ニ在リテハ其ノ日ヨリ、既ニ派遣中ノ者ニ在リテハ開戰ノ日ヨリ任務ヲ了ヘ歸着ノ日又ハ給與停止ノ前日迄之ヲ支給ス

第七條 工員戰地ニ於テ勤務中傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ戰地外ニ於テ療養中ハ指定ノ病院又ハ療養地到着ノ日ノ翌日ヨリ退院又ハ療養地出發ノ日ノ前日迄給料ノ四分ノ一ノ増給ヲ支給ス戰地ニ一時往復ノ途中ニ於テ公務ニ因ル傷痍ヲ受ケ又ハ

秘海軍公報 第四八二九號 昭和十九年十月十八日

一三八七

1502

疾病ニ罹リ入院又ハ療養中ノ者ニ付亦同ジ

第八條 第一條第一項前段ノ規定ニ該當スル工員死亡シタルトキハ其ノ給料、増給、乗艦加給及臨時手當ハ之ヲ支給停止中ノ場合ヲ除ク外死亡公表ノ日ノ屬スル月ノ末日迄前ノ額ヲ支給ス但シ死亡公表シタル場合ト雖モ既ニ前金拂フ爲シタル給料、増給、乗艦加給及臨時手當ニ付テハ前金拂ノ日ノ現在ノ給料、増給、乗艦加給及臨時手當ニ依リ其ノ前金拂ニ係ル月分迄之ヲ支給ス

死亡ノ日昇級アリタル場合ニシテ死亡ノ月ニ於テ死亡公表ノアリタルトキハ第一項本文ノ規定ニ拘ラズ辭令ノ日以後新給額ヲ支給ス

死亡ノ日ノ屬スル月ノ翌月以後ノ臨時手當ハ第一項本文ノ規定ニ拘ラズ其ノ支給ヲ停止ス

第一項及第二項ノ規定ハ戰地ニ在ラザルモ特別ノ命令ニ依リ對敵ノ行動ヲ取ル各部ニ在ル工員ニ付之ヲ準用ス

第一項ノ規定ハ賞與及臨時家族手當ノ支給ニ付之ヲ準用ス

第九條 第一條第一項前段ノ規定ニ該當スル工員擅ニ職務ヲ離レ若ハ他方ニ赴キ故ナク歸着ノ期ニ後レタルトキ又ハ留置、勾留、處刑、處罰若ハ被害事件ノ爲護送中ハ其ノ當日ヨリ出務ノ日ノ前日迄給料、増給、乗艦加給及臨時手當ノ支給ヲ停止ス但シ被害事件不起訴、免訴若ハ無罪ト爲リタルトキ又ハ被害事件繫續中死亡シタルトキノ給料ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ前項ノ規定ニ依リ給料、増給、乗艦加給及臨時手當支給停止

ノ場合ニ於テ海軍懲罰令第三十條ノ規定ニ依リ勤務ニ服セシムルトキハ其ノ間之ヲ停止セズ

第十條 第一條第一項前段ノ規定ニ該當スル工員敵ノ俘虜ト爲リタルトキハ其ノ翌日ヨリ復歸ノ前日迄増給ノ支給ヲ停止ス

第十一條 艦船乗組ノ工員ニハ第二表ニ依リ乗艦加給ヲ支給ス前項ノ加給ノ支給區分ハ軍人ノ航海加停支給ノ例ニ依ル

第十二條 支那ニ在ル陸上ノ部隊其ノ他ノ各部ニ勤務スル工員ニシテ家族ト同居スルモノハ工長ニ在リテハ月額百圓、其ノ他ノ者ニ在リテハ月額八十圓ノ特別手當ヲ支給ス

前項ノ家族トハ配偶者（届出ヲ爲サザルモ事實上婚姻關係ト同様ノ事情ニ在ル者ヲ含ム）及十八歳未満ノ子ヲ謂フ

第十三條 前條ノ特別手當ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ之ヲ支給セズ

- 一 年齢二十五歳未満ノ者
- 二 一年未満ノ豫定ヲ以テ支那ニ勤務スル者
- 三 二年未満ノ豫定ヲ以テ海軍ニ勤務スル者
- 四 艦船乗員又ハ艦船乗組ノ配置ニ在ル者
- 五 海軍部外ニ在職スル者
- 六 其ノ他所屬長官ニ於テ支給ヲ要セザルモノト認ムル者

第十四條 第十二條ノ手當ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ支給ス

- 一 家族工員ノ在勤應所在地ニ到着ノ日ヨリ工員退職ノ日又ハ家族工員ノ勤務應所在地ニ在ラザルニ至リタル日迄トス
- 二 手當ノ額ニ異動ヲ生ジタルトキノ新給與額ハ其ノ日ヨリ

トス

三 所屬ヲ轉ジタル場合ニ於テ新舊兩廳ニ跨ル日ノ手當ノ支給應ハ新勤務廳トス

第十五條 支那ニ在ル艦船部隊其ノ他ノ各部ニ勤務スル工員ニハ増給及乗艦加給ノ五割ニ相當スル額ヲ臨時手當トシテ支給ス

前項ノ手當ノ支給區分ハ陸上ノ部隊其ノ他ノ各部ニ勤務スル者ニ在リテハ勤務廳ニ到着ノ日ヨリ退廳ノ日又ハ給與停止ノ日ノ前日迄、艦船乗組中ノ者ニ在リテハ支那沿岸ニ到着ノ日ヨリ其ノ沿岸ヲ出航ノ日迄之ヲ支給ス

第十六條 第十二條ノ規定ニ依リ特別手當ノ支給ヲ受クル者ニハ特別手當ノ二十割ニ相當スル額ヲ臨時手當トシテ支給ス

前項ノ手當ノ支給區分ハ特別手當支給ノ例ニ依ル

第十七條 第十二條ノ規定ニ依リ特別手當ノ支給ヲ受クル者ニハ其ノ間臨時家族手當ノ六十割ニ相當スル額ヲ臨時手當トシテ支給ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ手當ニ付之ヲ準用ス

第十八條 第一條第一項前段ノ規定ニ該當スル工員ニ支給スル旅費ハ鐵道賃、船賃、車馬賃及手荷物運送料ノ實費並ニ日當、宿泊料及食卓料トス但シ日當、宿泊料及食卓料ハ本邦（千島、諸島、小笠原諸島、新南群島及南洋群島ヲ除ク）内ノ旅行ニ在リテハ海軍内國旅費規則第五表ニ依リ、戰地外各地ト戰地トノ間又ハ戰地相互間ニ在リテハ戰時軍人軍屬旅費特例第二

條乃至第六條、第八條乃至第十一條ノ四ノ規定ニ依リ之ヲ支給ス

前項ノ規定ニ依ル旅費ニ付テハ戰時軍人軍屬旅費特例第十九條、第二十條及第二十一條ノ規定ヲ準用ス

艦船便乗ニ依リ旅行スル者ニハ糧食ヲ給與シ食卓料ハ之ヲ支給セズ但シ糧食ノ給與ヲ受ケザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條 廳長必要ト認メタルトキハ前條ノ規定ニ拘ラズ旅費ノ定額ヲ減ジ又ハ旅費ノ一部若ハ全部ヲ支給セザルコトヲ得

第二十條 工員ノ採用應募者トシテ出頭シタル者ニ對シテハ廳長必要アリト認メタルトキハ日額二圓以内ノ旅費ヲ支給スルコトヲ得

第二十一條 工員ニシテ戰地ニ在ルモノ又ハ派遣セララルモノニハ派遣手當トシテ一回限り給料ノ三十日分ヲ支給スルコトヲ得

戰地ニ一時往復スル工員ニハ前項ノ派遣手當ノ半額ヲ支給スルコトヲ得

前二項ノ派遣手當ハ出發廳（派遣元廳アル者ニ付テハ派遣元廳）ニ於テ之ヲ支給ス

第二十二條 前條ノ規定ニ該當スル者ニハ支度料ハ之ヲ支給セズ

第二十三條 第一條第一項前段ノ規定ニ該當スル工員ニシテ乗組艦船ノ破壊、沈没又ハ航空機ノ事故其ノ他不可抗力ニ依リ被服物品ヲ亡失シ又ハ毀損シ使用ニ堪ヘザルニ至リタルトキ

ハ海軍戰時給與規則施行細則第十七條ノ規定ニ拘ラズ百二十
圓以内ノ遭難服裝手當ヲ支給スルコトヲ得

前項ノ手當ハ遭難者初メテ本邦港灣ニ到着シタルトキ該港灣
ヲ警備區トスル鎮守府又ハ警備府所在地ノ海軍經理部ニ於テ
之ヲ支給スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ手當ヲ支給シタルトキハ遭難者ノ廳長、派
遣元廳ノ長又ハ殘務整理班ノ所屬鎮守府所在地ノ海軍經理部
長ニ之ヲ通報スルモノトス

前三項ノ規定ハ戰地ニ在ラザルモ特別ノ命令ニ依リ對敵ノ行
動ヲ取ル各部ニ在ル工員ニ付之ヲ準用ス

第二十四條 第五條ノ規定ニ依リ増給ヲ受クル者ニハ戰時海軍
工員規則第五十二條乃至第五十五條及第六十三條ノ規定ハ之
ヲ適用セズ

第二十五條 工員ニシテ戰地ニ在ルモノハ之ヲ宿舍ニ起臥セシ
ム

前項ノ規定ハ戰地ニ派遣セララルル目的ヲ以テ採用又ハ徵用セ
ラレタル工員戰地ニ出發前戰地外ニ待機中ノ期間ニ付之ヲ準
用ス

第二十六條 第十二條ノ規定ニ依リ特別手當ノ支給ヲ受クル者
ニハ第三表ニ依リ家具ヲ貸與スルコトヲ得

第二十七條 第一條第一項前段ノ規定ニ該當スル工員ニハ第四
表ニ依リ被服物品ヲ貸與スルコトヲ得

前項ノ被服物品ハ戰地ニ向ケ出發ノ際出發應（派遣元廳アル

者ニ付テハ派遣元廳）ニ於テ之ヲ貸與スルコトヲ得

第二十八條 第一條第一項前段ノ規定ニ該當スル工員ニハ糧食
ヲ給與ス但シ現品ヲ以テ糧食ヲ給シ難キトキハ一食ニ付三十
錢ノ食料ヲ支給ス

前項ノ規定ハ戰地ニ派遣セララルル目的ヲ以テ採用又ハ徵用セ
ラレタル工員戰地ニ出發前戰地外ニ於テ官ノ施設ニ起臥スル
期間ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ糧食ハ最寄海軍軍需部（特設海軍軍需部ヲ含ム）又
ハ艦船部除ヨリ其ノ供給ヲ受クルコトヲ得

第二十九條 第十二條ノ規定ニ依リ特別手當ノ支給ヲ受クル者
ニハ前條ノ規定ニ拘ラズ第五表ニ依リ糧食及薪炭ヲ給與ス

第三十條 工員ニシテ戰地ニ在ルモノ又ハ昭和十六年官房機密
第一二六三九號第一項第一號若ハ第二號ニ該當スル各部ニ在
ルモノニハ第六表ニ依リ戰時特別給與品ヲ給與ス

第三十一條 第一條第一項前段ノ規定ニ該當スル工員傷病ヲ受
ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ治療費ハ之ヲ官費支辨トス

第三十二條 第一條第一項前段ノ規定ニ該當スル工員死亡シタ
ル場合ニ於テハ官ニ於テ之ヲ埋葬シ又ハ其ノ死體、遺骨、遺
物等ヲ遺族若ハ故舊ニ引渡ス爲必要ナル諸費ハ之ヲ官費支辨
トス

前項ノ場合其ノ死體、遺骨、遺物等ヲ遺族又ハ故舊ニ引渡ス
トキハ其ノ際葬祭料トシテ工長ニ在リテハ四十五圓、其ノ他
ノ者ニ在リテハ三十七圓五十錢ヲ支給ス

18 OCT 44

(達第三四七號別表)

(昭和十九年十月十八日祕海軍公報)

第一表ノイ				
増給				
給(戦地ニ在ルモノ、派遣セラルルモノ又ハ一時往復スルモノ)				
區分	増		給	
	標準	最高、最低	給率	
戦地	給料ノ二十割	同二十三割	同十七割	
備考	増給ハ標準額ノ豫算ヲ以テ勤務ノ優劣ニ應ジ最高最低ノ範圍内ニ於テ支給スルモノトス但シ最高及最低ノ増給ハ勤務廳ニ勤務ノ日又ハ到着ノ日ヨリ該廳退廳ノ日迄ノ期間之ヲ支給ス			

1506

(達第三四七號別紙)

(昭和十九年十月十八日祕海軍公報)

考 備	第一表ノ(ロ) 増 給(艦船乗員)		増 給		率	
	區 分	定 額	給 料	六 割	最 高	最 低
北緯四度以南同二六度以北ノ 本邦(千島諸島及小笠原諸島ヲ 除ク)沿岸	同	七 割	同	七 割	同	六 割
北緯四度以北同二六度以南ノ 本邦沿岸(千島諸島、小笠原諸 島、南洋群島及新南洋群島ヲ除ク) 及北緯五〇度以南ノ亞細亞蘇聯 領沿岸	同	十 割	同	十二 割	同	八 割
千島諸島沿岸、小笠原諸島沿岸、 南洋群島沿岸、新南洋群島沿岸、 支那沿岸、北緯五〇度以北ノ亞 細亞蘇聯領沿岸及前各項以外ノ 地域沿岸	同	十五 割	同	十八 割	同	十二 割

一 本表ノ増給ヲ給スル場合ニハ第二表備考第二號ノ規定ハ當該艦船朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ在ル港ヲ定額港ト
スル場合ニ限リ之ヲ適用ス
二 増給ハ標準額ノ豫算ヲ以テ勤務ノ優劣ニ應ジ最高最低ノ範圍内ニテ支給スルモノトス但シ最高及最低ノ増給
ハ勤務應ニ勤務ノ日又ハ到着ノ日ヨリ該艦退艦ノ日迄ノ期間之ヲ支給ス

1507

第二表 乗艦加給(日額)

考 備		給 料 區										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											
考 備		等 級										第一欄	
		等 級											

(達第三四七號別紙)

(昭和十九年十月十八日祕海軍公報)

第三表 家具貸與定數					
名 稱	等 級	工 (鑄)	長	工(鑄)長以外ノ工(鑄)員	摘 要
卓 子	子	一	一	一	
小 卓 子	子	一	一	一	
小 椅 子	子	二	二	二	
疊		一 二	一 二	八	本個數以內ニ於テ一室ニ限 リ裝備スルモノトス
机		一	一		
回 轉 椅 子	子	一	一		
茶 筵 箱	箱	一	一	一	
衣 類 箱	箱	一	一	一	
据 風 呂	呂	一	一	一	定着浴槽ノ設備ナキ浴室ニ 限ル
移動式炊事用戶棚	棚	一	一	一	定着戸棚ノ設備ナキ炊事場 ニ限ル
備考	本表ノ家具ハ所屬長官ニ於テ必要ト認メタル場合ハ適宜類似ノ物品ヲ流用貸與シ又ハ貸與セザルコトヲ得				

(昭和十九年十月十八日海軍公報)

品名	區分	定數	制式	地質	備考
----	----	----	----	----	----

1510

18 OCT 44

(達第三四七號別表)

(昭和十九年十月十八日秘海軍公報)

第五表 家族招致者官給糧食及薪炭		品	目	量	額	記	事
考	備	精	米	大人	小人	一人日量	一人日量
		食	砂	醬	味	油	噌
三	本表ニ於テ小人ト稱スルハ數ヘ年十歳以下ノ者ヲ謂フ	炭	一家族月量	九〇瓩	一〇五瓦	四〇〇瓦	二五〇瓦
		木炭、薪等ヲ以テ石炭ニ代用スルヲ適當ト認ムル場合ハ當該地ニ於テ石炭使用ニ要スル經費ノ範圍内ニ於テ所屬長官ノ定ムル所ニ依リ換給スルコトヲ得	所屬長官必要ト認ムルトキハ換給量額ヲ定メ代用食品ヲ給スルコトヲ得	所屬長官必要ト認ムルトキハ量額ノ割合ヲ以テ相互換給スルコトヲ得			

1511

(達第三四七號別紙)

(昭和十九年十月十八日祕海軍公報)

第六表 戦時特別給與品

種別	品名	給與料	
		數	支給定日
日用品	手拭、ハンカチーフ、齒磨揚子、齒磨粉、落シ紙、 襪、石鹼、鉛筆、狀袋、便箋	適宜	廳長ノ定ムル所ニ依ル
臨時飲食物	酒、煙草、甘味品		
備考			
本表ノ物品ノ給與ハ左ノ各號ニ依ルモノトス			
一 本表ノ物品ハ日用品及臨時飲食物ニ分テ當月ノ豫算ノ範圍内ニ於テ食卓長又ハ班長等ニ配給スルモノトス			
當月ノ豫算ハ其ノ月一日在籍員(給與資格者)ニ對シ日用品ニ在リテハ五十錢、臨時飲食物ニ在リテハ二圓ヲ			
乗ジタル金額トス但シ給與開始ノ月ハ開始ノ日ノ現在員ニ付日割計算ニ依リ算出スルモノトス			
二 支給日ニ於ケル現在員當月ノ豫算人員ニ比シ二割以上ノ増減アル場合ハ支給日ノ現在員ニ依リ前號ノ豫算ヲ			
更定スルモノトス			
三 入院患者又ハ派遣員ニ付當該廳長必要ト認メタル場合ハ當該病院又ハ派遣ヲ受ケタル廳ニ於テ前二號ニ準ジ			
テ給與スルコトヲ得			
四 前項ノ給與ヲ爲シタルトキハ給與廳ヨリ其ノ旨本人ノ所屬廳ニ通報スルモノトス			
五 當月ノ豫算ハ物品ノ入手不能等特別ノ理由アル場合ノ外翌月ニ繰越スコトヲ得ザルモノトス			

1512

前二項ノ規定ハ戰地ニ在ラザルモ特別ノ命令ニ依リ對敵ノ行動ヲ取ル各部ニ在ル工員ニ付之ヲ準用ス

第三十三條 第一條第一項前段ノ規定ニ該當スル工員職務上傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ傭人扶助令ヲ適用ス

前項ノ扶助金算出ノ標準タル給料ハ戰地ニ向ケ最終ニ戰地外ノ地ヲ出發ノ日ヨリ最初ニ戰地外ノ地ニ到着ノ日迄ノ期間ニ於テ職務上受傷、罹病又ハ死亡（派遣元廳ニ復歸後之方爲死亡シタル場合ヲ含ム）シタル場合ニ於テハ之ヲ給料及増給（給料ノ二十割トス）ノ合計額ト爲スモノトス

第三十四條 廳長前條ノ規定ニ該當スル工員ニシテ派遣元廳アルトキハ傭人扶助金支給細則第二條ニ規定スル書類作成ニ必要ナル資料ヲ其ノ派遣元廳ニ送付シ派遣元廳ハ同條ニ規定スル書類ヲ作成シ扶助金ノ支給ヲ同廳所管ノ鎮守府又ハ警備府所在地ノ海軍經理部（東京都ニ在ル派遣元廳ニ在リテハ海軍省經理局）ニ請求スルモノトス

第三十五條 派遣元廳アル工員ノ給料、増給、賞與（誓約賞與ヲ含ム）及臨時家族手當ハ海軍軍人軍屬係給家族下渡規則ニ定ムルモノヲ除クノ外派遣元廳ニ於テ之ヲ支給ス

派遣元廳ニ於テ支給スル給與ニシテ之ヲ受取ルベキ家族ナキトキハ給與掌理者ハ之ヲ受領シ郵便貯金又ハ確實ナル銀行ニ預入レ保管スルモノトス

第三十六條 第一條第一項前段ノ規定ニ該當スル工員戰死、戦傷死其ノ他公務ニ因リ死亡シタル場合死後ノ日以後支給スベキ給與ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ支給スルコトヲ得死後前支給スベカリシ給與ニシテ其ノ支給未済ノモノニ付亦同ジ

一 派遣元廳アル者ニ付テハ其ノ派遣元廳ノ、派遣元廳ナキ者ニ付テハ其ノ所屬廳ノ所管ノ鎮守府又ハ警備府所在地ノ海軍經理部

二 前號ニ該當セザル者ニ在リテハ海軍省經理局

合同葬儀ヲ行フ場合ニハ前項ノ規定ニ拘ラズ合同葬儀ヲ行フ地ノ所管ノ鎮守府又ハ警備府所在地ノ海軍經理部（東京都ニ在リテハ海軍省經理局）ニ於テ之ヲ支給スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ新ニ部外ヨリ採用セラレ外地又ハ戰地ニ派遣セララル者其ノ到着前退職又ハ死歿シタル場合ニ付之ヲ準用ス

附 則

本達ハ昭和十九年十月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

昭和十七年官房第一七一六號中第一號(イ)、第二號(一)、(三)及(四)削除

海軍工員臨時給與規則(昭和十七年達第七十一號)、昭和十七年官房機密第四號ノ二、同官房第一四四二號、同官房第五〇六八號及昭和十九年官房經第二六一號ハ之ヲ廢止ス

(別紙添)

1514

驅逐隊
潛水隊
海防隊
水雷隊
掃海隊
驅潜隊

同表ノ部中所屬ノ欄「潛水隊」ノ次ニ「砲艦隊」ヲ、「海防隊」ノ次ニ「輸送隊」ヲ、考課表調製官ノ欄「潛水艦長」ノ次ニ「砲艦長」ヲ、「海防艦長」ノ次ニ「輸送艦長」ヲ、記事ノ欄「潛水艦」ノ下ニ「砲艦」ヲ、「海防艦」ノ下ニ「輸送艦」ヲ、「潛水艦長」ノ下ニ「砲艦長」ヲ、「海防艦長」ノ下ニ「輸送艦長」ヲ加フ

同表備考第一號中「佐官又ハ尉官」ヲ「高等武官」ニ改ム
別表第二號海軍文官考課表調製區分表中備考ニ左ノ一號ヲ加フ
四、廳長ノ調製スベキ奏任官ノ考課表ハ必要ニ應ジ部下ノ高等官ヲ指定シ之ヲ調製セシムルコトヲ得

○通牒

官房機密第一三四號ノ一六
昭和十九年十月十五日

關係各廳長殿
海軍省副官

暗號圖書配給及處分ニ關スル件申進
首題ノ件ニ關シテハ別ニ特令セララルモノヲ除キ別冊暗號圖書現狀表第三八號ニ依リ處理相成度
(別冊ハ所要ノ向ニノミ之ヲ配付ス)

官房機密第二六四三號
昭和十九年十月十六日

關係各廳長殿
海軍省副官

航空兵器主管並ニ類別變更ノ件通知
首題ノ件左記ノ通變更ノコトニ定メラレ候處基準兵器簿又ハ兵器定數簿改正迄ハ現行基準兵器簿又ハ兵器定數簿定數内供給ノコトニ取計相成度
追テ在庫並ニ供給中ノモノノ移管又ハ取扱區分變更ハ帳簿現在高ノ轉記ニ依リ整理シ得ル義ト了知相成度
記

品目	現行		改定		正		記事
	飛行長主管第一類	飛行長主管第二類	飛行長主管第一類	飛行長主管第二類	通信長主管(航空)	主管變更類別變更以下同シ	
航空燈臺	○				○		
交誼器類							
落下傘各種							
飛行機用鎗							
裝帶各種							
梱包各種							
落下傘要具類							
敷布(落下傘用)							

救命具類

「備考」○印ハ主管又ハ類別變更ヲ示ス

經線機密第三號ノ七八

昭和十九年十月十六日

海軍省 經理局長

關係各支出官殿

海軍運輸部ニ於ケル工具旅費支辨科目ニ

關スル件通牒

首題ノ件ニ關シテハ從來雜給及雜費、出張旅費支辨ノ處本年十月一日以降運輸費支辨ト改定相成候
追テ既支出済ノ分ハ其ノ儘トシ科目更正ノ必要無之候

航本機密第一二七三七號

昭和十九年十月十二日

海軍航空本部總務部長

關係各廳長殿

一式陸攻二二型電源並列運轉ニ關スル件照會

首題飛行機電源ハ負荷増加ノ爲充電用發電機三型ヲ直結發電機
一一〇型並列運轉ニ改造セラレタルモ過渡的ニ一一〇型ヲ裝備
シ並列運轉工事未済ノモノ有之事故發生セル事例アルニ付左記
ニ依リ至急調査配線ノコトニ取計相成度

記

一 實施要領 直結發電機一一〇型及一二五型取扱説明書第六

項ノ要領ニ依ル

二 並列運轉可能ノ制御筐ハ筐蓋及筐體側面ニ十五耗ノ赤丸アリ

三 配電盤裏ニ於テ左右發電機ノ正側端子ヲ短絡ス（短絡片ノ寸法ハ別圖ノ通）
（別圖添）

○ 雜 款

○ 內令提要別冊（定員關係）追録第四號（八月三十一日現在）
十月四日發送済ニ付受領セバ直ニ加除整理ヲ施行シ至急受領票
送付アリタシ

（海 軍 省 副 官）

○ 轉勤者赴任先

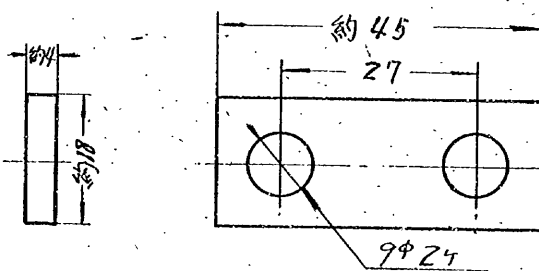
當隊ヘノ轉勤者ハ「マカツサル」基地ニ向ケ轉勤セシメラレ度

（第九三四海軍航空隊）

18 OCT 44

(航本機密第一二七三七號別圖)

正側端子
短絡片



表面 ハンダ揚げ
材料 銅

(昭和十九年十月十八日秘海軍公報)

1517